

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年6月24日

【事業年度】 第64期(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

【会社名】 木村化工機株式会社

【英訳名】 KIMURA CHEMICAL PLANTS Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小林 康 眞

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市杭瀬寺島2丁目1番2号

【電話番号】 06(6488)2501(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部門長 谷 本 周 平

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市杭瀬寺島2丁目1番2号

【電話番号】 06(6488)2501(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部門長 谷 本 周 平

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
(1) 連結経営指標等					
売上高 (百万円)	17,842	21,617	19,111	21,420	17,199
経常利益 (百万円)	339	802	949	2,222	520
当期純利益 (百万円)	153	774	424	1,286	469
包括利益 (百万円)					453
純資産額 (百万円)	3,780	4,359	4,614	5,857	6,146
総資産額 (百万円)	19,215	19,144	20,144	18,313	17,383
1株当たり純資産額 (円)	183.68	211.83	224.23	284.63	298.65
1株当たり 当期純利益金額 (円)	7.44	37.62	20.60	62.50	22.80
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	19.7	22.8	22.9	32.0	35.4
自己資本利益率 (%)	4.1	17.8	9.4	24.6	7.8
株価収益率 (倍)	87.23	23.26	31.94	14.10	21.10
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,358	552	2,479	63	1,087
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	246	470	328	737	130
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	691	613	1,466	232	812
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	963	555	1,239	797	942
従業員数 (人)	388	404	405	404	387
(2) 提出会社の経営指標等					
売上高 (百万円)	17,791	21,514	19,044	21,383	17,141
経常利益 (百万円)	288	710	904	2,212	496
当期純利益 (百万円)	127	748	399	1,278	459
資本金 (百万円)	1,030	1,030	1,030	1,030	1,030
発行済株式総数 (千株)	20,600	20,600	20,600	20,600	20,600
純資産額 (百万円)	3,555	4,108	4,340	5,575	5,854
総資産額 (百万円)	18,928	18,875	19,783	18,117	17,199
1株当たり純資産額 (円)	172.75	199.64	210.92	270.89	284.46
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	()	4.00 ()	5.00 ()	8.00 ()	5.00 ()
1株当たり 当期純利益金額 (円)	6.20	36.39	19.43	62.10	22.33
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	18.8	21.8	21.9	30.8	34.0
自己資本利益率 (%)	3.6	18.2	9.5	25.8	8.0
株価収益率 (倍)	104.68	24.05	33.87	14.19	21.54
配当性向 (%)		11.0	25.7	12.9	22.4
従業員数 (人)	357	369	372	377	368

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【沿革】

- 大正13年11月 木村鉛工所を大阪市西淀川区大和田町に創業し、鉛工事の請負及び硬鉛製機器の製造を開始。
- 昭和14年4月 尼崎市杭瀬に工場を新設・移転し、木村鉛鉄機械工業所と改称。鉛管・鉛板等鉛についての一貫体制を完備するとともに化学機械用各種装置メーカーとして独自の地歩を確立。
- 昭和31年10月 原子力利用関係機器・装置の設計・製作を開始。
- 昭和33年11月 法人組織に改組、木村鉛鉄化学機械株式会社を設立。資本金1億5千万円
- 昭和36年10月 株式を大阪証券取引所市場第二部に上場。資本金3億円
- 昭和38年4月 化学機械装置の実験研究所を尼崎工場内に設置。
- 昭和43年4月 大分県鶴崎に大分工場を新設。
- 昭和44年6月 木村化工機株式会社に商号変更。
- 昭和45年7月 尼崎工場の製罐工場を増設。
- 昭和45年10月 資本金を10億3千万円に増資。
- 昭和46年8月 株式を大阪証券取引所市場第一部に指定替え上場。
- 昭和46年10月 株式を東京証券取引所市場第一部に上場。
- 昭和51年1月 静岡工場新設。
- 昭和53年9月 三原木村工機株式会社(現 連結子会社)を設立。
- 昭和58年8月 尼崎工場内に本社事務所を新設。
- 昭和62年10月 子会社 株式会社サモンド・サービスを設立。
- 平成2年5月 尼崎工場の事務所・厚生施設の建替・新築。
- 平成14年4月 東北木村工機株式会社(現 連結子会社)を設立。
- 平成14年5月 関連会社 煙台万華木村化工機械有限公司を中国との合弁で設立。
- 平成20年5月 本社事務棟を増設。
- 平成21年5月 尼崎工場製缶・工作棟建替。
- 平成21年7月 フォレコ株式会社の株式を取得(子会社化)。

3 【事業の内容】

当社及び当社の関係会社(当社、子会社4社及び関連会社2社(平成23年3月31日現在)により構成)においては、エンジニアリング事業、化工機事業及びエネルギー・環境事業の3事業を行っており、その製品の種類は多岐にわたっております。各事業における当社及び関係会社の位置付け等は次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(エンジニアリング事業)

当部門においては、各種蒸発装置、各種晶析装置、洗浄装置、攪拌機、圧力容器タンク、各種ステンレス・鉄・樹脂の配管工事等の設計、製作、加工並びに販売を行っております。

〔関係会社〕 当社及び煙台万華木村化工機械有限公司(関連会社)が製造及び工事を行い、当社が販売しております。

(化工機事業)

当部門においては、各種プラント設備の設計、機器製作、既設撤去、据付、配管、塗装、保温、試運転調整及びメンテナンス工事等の管理、請負施工を行っております。

〔関係会社〕 当社並びに三原木村工機(株)(連結子会社)及び東北木村工機(株)(連結子会社)が製造及び工事を行い、当社及び東北木村工機(株)(連結子会社)が販売しております。

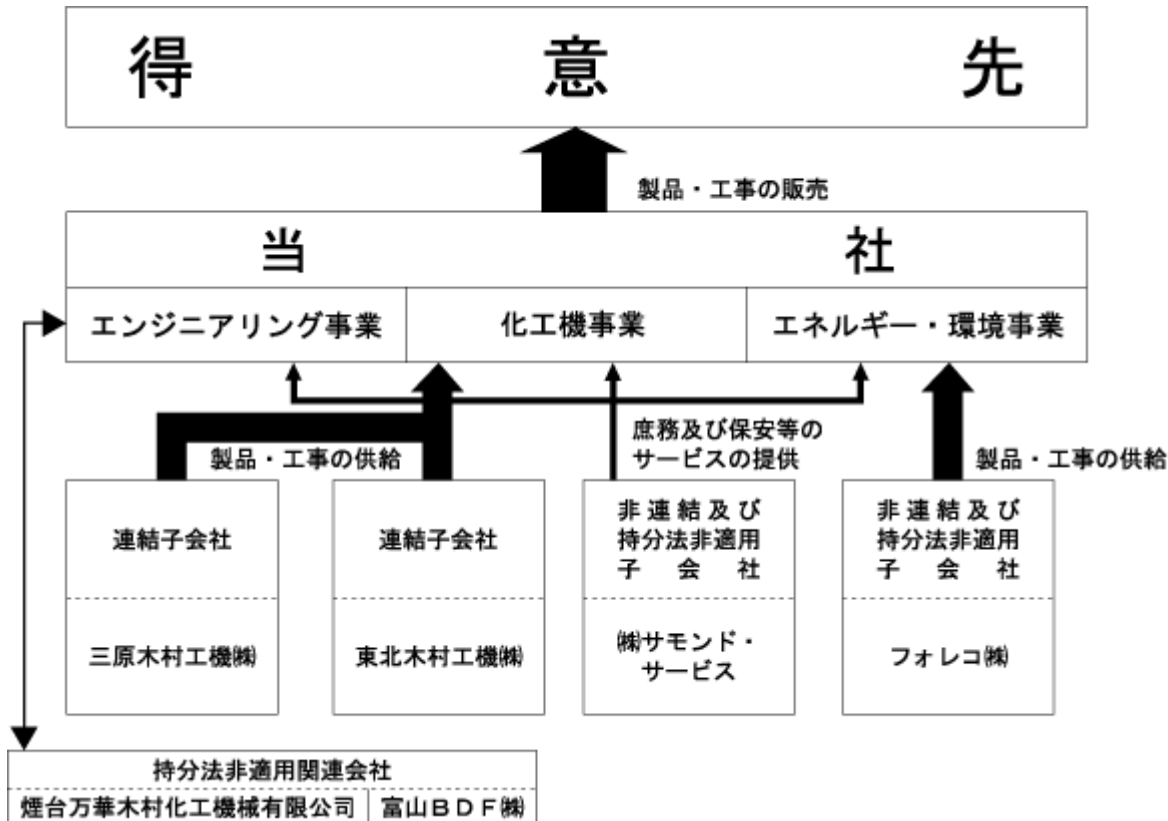
(エネルギー・環境事業)

当部門においては、核燃料輸送容器及び格納装置、核燃料濃縮関連機器、放射性廃棄物処理装置、放射線遮蔽設備及び各種実験設備等の設計、製作、加工並びに販売と、これら各種製品の設置並びに付帯工事を行っております。

〔関係会社〕 当社及びフォレコ(株)(非連結子会社)が製造及び工事を行い、販売しております。

なお、(株)サモンド・サービス(非連結子会社)は、当社のエンジニアリング事業、化工機事業及びエネルギー・環境事業全てにかかわる、庶務及び保安等のサービスの提供を行っております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

(連結子会社)

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
三原木村工機(株)	広島県三原市	20	化工機事業	100.0	当社に製品・工事を供給しております。 なお、当社所有の土地・建物等を賃借して おります。 役員の兼任等.....有
東北木村工機(株)	秋田県鹿角郡 小坂町	10	化工機事業	100.0	当社に製品・工事を供給しております。 なお、当社所有の土地・建物等を賃借して おります。 役員の兼任等.....有

(注) 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
エンジニアリング事業	98
化工機事業	144
エネルギー・環境事業	83
全社(共通)	62
合計	387

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
368	43.6	17.9	6,441,414

セグメントの名称	従業員数(人)
エンジニアリング事業	98
化工機事業	125
エネルギー・環境事業	83
全社(共通)	62
合計	368

(注) 1 従業員数は就業人員数であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、JAM木村化工機労働組合が組織(組合員数 219人)されており、JAMに属して
おります。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

以下、「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等は含んでおりません。

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の景気刺激策、新興国の景気拡大により、緩やかな持ち直しがみられたものの、秋以降は景気対策効果が漸減し、急激な円高、資源価格の高騰と相まって生産や輸出が足踏み状態となりました。また、設備投資は、企業収益が改善するなか、持ち直し基調にありましたが、設備過剰感の解消遅れにより、その回復ペースは緩慢でした。雇用情勢は依然厳しく、経済のデフレ状況も続く中、本格回復には至りませんでした。加えて、本年3月11日に発生しました東日本大震災によって、景気の先行きに不透明感が増幅されました。なお、このたびの震災による当社グループの従業員の人的被害はなく、本社および各事業所の建物、設備などに重大な被害は発生しなかったため、当連結会計年度の業績に影響はありませんでした。

上記の経済環境にあつて、当社のエンジニアリング事業部および化工機事業部が主要顧客とする化学機械装置関連業界につきましては、企業収益は改善しましたが、円高、長期化するデフレによる販売価格の下落、資源価格の高騰によるコスト増が下振れ圧力となり、製造拠点の海外シフトが加速した一方、国内の設備投資は抑制気味に推移し、受注競争が激化しました。

エネルギー・環境事業部が担当する原子力機器関連業界につきましては、低炭素化社会に向けて原子力発電の気運が高まりましたが、六ヶ所再処理工場竣工の延期や新規施設の建設がなかったこと等により、全般的に低調に推移しました。

このような厳しい状況下、当社グループは、既存顧客への積極的な営業活動はもとより、設備投資意欲が旺盛な新規顧客を開拓し、受注に繋がる営業活動に注力した結果、受注高は18,273百万円と前連結会計年度に比べ3,657百万円の増加（+25.0%）、売上高は17,199百万円と前連結会計年度に比べ4,221百万円の減少（-19.7%）となりました。

損益面につきましては、全社的にコスト管理を徹底し工程管理に努めましたが、原材料価格の高騰、受注競争激化および不採算案件の発生による原価率の上昇等により、営業利益は537百万円と前連結会計年度に比べ1,700百万円の減少（-76.0%）、経常利益は520百万円と前連結会計年度に比べ1,702百万円の減少（-76.6%）となり、当期純利益は469百万円と前連結会計年度に比べ817百万円の減少（-63.5%）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

エンジニアリング事業

化学機械装置の設計・製作・据付工事を行うエンジニアリング事業につきましては、顧客企業各社の設備投資は総じて抑制傾向にありましたが、先進技術関連の「太陽光発電関連材料製造設備」、「医療・医薬関連材料製造設備」、「食品関連製造設備」、「バイオエネルギー関連製造設備」のほか、厳しい受注競争下で「単体機器」に注力した結果、受注高は前期を上回ることができました。なお、バイオエネルギー関連製造設備につきましては、一昨年度から継続受注の「木材からのバイオエタノール製造設備」に加え、海外向け高品質「バイオディーゼル燃料（BDF）製造設備」を受注いたしました。売上高につきましては、「液晶関連設備」、「太陽光発電関連材料製造設備」、「医療・医薬関連材料製造設備」等にかかわる受注残および短納期工事の売上により、前期の大幅受注減に伴う売上高の減少を一定程度補填することができました。

その結果、受注高は 9,087百万円と前連結会計年度に比べ 2,235百万円の増加（+32.6%）、売上高は 7,842百万円と前連結会計年度に比べ 4,646百万円の減少（-37.2%）となり、営業利益 560百万円と前連結会計年度に比べ 1,789百万円の減少（-76.2%）となりました。

化工機事業

化学機械装置の現地工事、各種メンテナンス業務を行う化工機事業につきましても、顧客企業各社の設備投資は総じて抑制傾向にあり、他社との価格競争も激化しました。特にメンテナンス業務については、大変厳しい競争下にありました。このような厳しい状況下、主として繊維、製薬、化学、食品等の顧客企業に積極的に営業活動を展開し、また、エンジニアリング事業との連携を図り、製造設備の新設および増設工事の受注を確保することができました。売上高につきましても、既存顧客の敷地内に常駐し、メンテナンス業務を中心に各種案件に取り組みました。

その結果、受注高は 5,508百万円と前連結会計年度に比べ 577百万円の増加（+11.7%）、売上高は 5,511百万円と前連結会計年度に比べ27百万円の増加（+0.5%）となり、営業利益93百万円と前連結会計年度に比べ 219百万円の増加（%）となりました。

エネルギー・環境事業

原子力機器の設計・製作・設置工事を行うエネルギー・環境事業につきましては、地球温暖化対策として、世界レベルで原子力発電推進の気運が高まりましたが、国内では、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の竣工が2年間延期となったほか、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料（MOX燃料）製造施設の許認可関係も当初の予定より順延しました。このような厳しい状況下、精力的に営業活動および技術開発を進め、営業面につきましては、近年の目標の一つであった電気ボイラーの初受注を得ることができました。また、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料（MOX燃料）製造施設の追加受注および核燃料輸送容器関連の受注を獲得しました。

その結果、受注高は 3,677百万円と前連結会計年度に比べ 844百万円の増加（+29.8%）、売上高は 3,844百万円と前連結会計年度に比べ 397百万円の増加（+11.5%）となり、営業損失 116百万円と前連結会計年度に比べ 130百万円の減少（%）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動により 1,087百万円増加、投資活動により 130百万円減少、財務活動により 812百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ 145百万円増加し、当連結会計年度末には 942百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動により資金は1,087百万円増加し、前連結会計年度に比べ 1,024百万円流入が大きくなりました。主な要因は、仕入債務の支払いが減少したこと、前受金収入が増加したことなどです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動により資金は 130百万円減少し、前連結会計年度に比べ 607百万円流出が小さくなりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が減少したことです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動により資金は 812百万円減少し、前連結会計年度に比べ 1,044百万円流出に転じました。主な要因は、長期借入れによる収入の減少です。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
エンジニアリング事業	7,777	26.5
化工機事業	5,004	12.1
エネルギー・環境事業	3,438	5.6
合計	16,220	18.6

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況を示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
エンジニアリング事業	9,087	+32.6	6,637	+23.1
化工機事業	5,508	+11.7	1,050	0.3
エネルギー・環境事業	3,677	+29.8	6,721	2.4
合計	18,273	+25.0	14,409	+8.1

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
エンジニアリング事業	7,842	37.2
化工機事業	5,511	+0.5
エネルギー・環境事業	3,844	+11.5
合計	17,199	19.7

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
エム・セテック(株)	6,940	32.4		
ニプロ(株)			2,945	17.1

- (当該販売実績の総販売実績に対する割合が10%未満の連結会計年度については、記載を省略しております。)
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

(1) 対処すべき課題

今後のわが国経済は、当面は、東日本大震災による生産設備の毀損、サプライチェーンの寸断、電力供給の制約等から生産活動が大きく低下し、輸出や国内民間需要にも相応の影響を及ぼすと考えられます。その後、供給面での制約が和らぎ生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の改善を背景とする輸出の増加や資本ストックの復元に向けた需要の顕現化等により景気は緩やかに回復していくと見込まれています。ただし、設備投資につきましては、企業の製造拠点の海外シフトが強まれば、復興需要はそれほど顕在化しない可能性があります。

このような状況下、エンジニアリング事業につきましては、受注の確保・拡大を図るため、国内では、先進技術関連である「太陽光発電関連材料製造設備」、「医療・医薬関連材料製造設備」、「食品関連製造設備」等の営業拡大を中心に、海外では、中国向けに「特殊設備製造許可証(ML)」対象の製造設備用高品質圧力容器類、中国および東南アジア向けに「回収再生装置」、「食品および化成品関連省エネ型蒸発濃縮装置」等の販売の拡大を中心に営業活動を展開してまいります。これらを実行するうえで不可欠な「営業・技術・組織基盤」のさらなる充実を図るとともに、コスト低減、品質管理を強化してまいります。

化工機事業につきましては、エンジニアリング事業との連携を一層深め、業容の拡大を図ってまいります。また、既存顧客を軸にしなが、併せて新規顧客の開拓や近年、取引関係が希薄になっている顧客への営業活動によってメンテナンスエリアの拡大を目指すとともに、顧客の要望に沿ったゾーンメンテナンスを構築いたします。これらの施策を実現するため、事業部内教育を充実させ、現場監督者の育成に注力してまいります。

エネルギー・環境事業につきましては、東日本大震災による東京電力株式会社福島第一原子力発電所の深刻な事故によって、原子力政策や新規の原子力発電所建設計画などについて、先行き不透明となりました。もっとも、近時のエネルギー・環境事業の中心事業である核燃料サイクルにつきましては、資源の乏しいわが国にあって、資源確保の観点からも堅持される見通しですが、当分の間、原子力機器関連事業は低調に推移すると予測されますので、ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料(MOX燃料)製造施設に向けて品質の確保と工程遵守に努めるとともに、事業の安定化と市場の拡大を目指してまいります。事業の安定化については、積極的に国家プロジェクトに参画し、将来の核燃料サイクルへの参画を確実にするとともに、メンテナンス事業の拡大を図ってまいります。市場の拡大については、原子力機器関連事業に止まらず、火力発電をはじめ各種エネルギー市場全般において積極的に営業活動を展開してまいります。また、環境関連事業等、新規市場への参入を目指してまいります。

以上の積極的な営業展開と合わせて、経営の効率化、生産性の向上、固定費の削減等により引き続き経営体制の改善強化を進め、全社一丸となって企業の発展と業績の向上に努力する所存でございます。

(2) 株式会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、化学機器及びプラント等の総合メーカーである当社の経営においては、当社グループの有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、当社グループに与えられた社会的な使命、それら当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を構成する要素等への理解が不可欠です。これらを継続的に維持、向上させていくためには、当社グループの企業価値の源泉である、()80余年にわたる豊富な知見と実績及び高度な品質とその管理体制に裏付けられた開発・技術の基盤、()わが国の多岐にわたる産業分野における多くの著名企業等を取引先とする顧客・営業基盤、()開発・技術基盤、顧客・営業基盤、品質管理を機能別に維持・拡充していく業務遂行の組織基盤を基軸とした中長期的な視野を持った経営的な取組みが必要不可欠であると考えております。当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者によりこうした中長期的視点に立った施策が実行されない場合、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益や当社グループに関わるすべてのステークホルダーの利益は毀損されることになる可能性があります。

当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくよう努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価が妥当かどうか等買付者による大規模な買付行為の是非を株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠です。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社グループに与える影響や、買付者が考える当社グループの経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討するうえで重要な判断材料となると考えます。

基本方針実現のための取組み

イ 基本方針の実現に資する特別な取組み（概要）

当社では、さらなる企業価値向上に向け、エンジニアリング事業、化工機事業、エネルギー・環境事業の3事業の全部門において、従来品の品質改良、価格競争力の向上、環境問題への対応、新製品の開発を進め、国内及び海外市場において、安定的な受注高・売上高を確保するとともに、顧客信頼基盤の向上と財務体質強化を、引き続き、推進してまいります。

その基本方針につきましては、次の通り規定しております。

1) 当社の企業価値の源泉である開発・技術、顧客・営業、組織の各基盤のあるべき姿を考慮のうえ行動し、当社経営内容の充実化を図り、活力と実行力のあるエンジニアリングメーカーを目指す。

2) 当社の得意とする技術分野において、さらに磨きをかけ、他の追随を許さないOnly One企業を目指す。

この基本方針に基づく重点課題は、(a) 既存各営業品目に関し、営業活動及び体制強化の推進、(b) 成長分野、高付加価値製品分野への技術・営業開発、(c) 技術革新と独自商品開発、(d) コストダウンとミス・クレームの撲滅、(e) 品質、納期、安全の維持・向上であり、全社一丸となって取り組むことにより、企業価値の向上に努めてまいります。

また、当社は、企業価値及び株主共同の利益を向上させ、企業の社会的責任を果たすために、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題の一つと位置づけ、迅速・正確かつ透明・適正な経営の実現に努めております。そのための監督・監査機能としては、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定める独立性の基準を満たす社外取締役1名及び社外監査役2名を選任し、このうち社外取締役、社外監査役各1名を独立役員に指定して、両取引所に届け出ていること、取締役の経営責任を明確にするためその任期を1年としていること、経営の効率化・意思決定の迅速化と業務執行体制の強化を図ることを目的として執行役員制度を導入していること等が挙げられます。

□ 基本方針に照らして不適切な者が支配を獲得することを防止するための取組み（概要）

当社は、平成23年5月27日開催の当社取締役会において、で述べた会社支配に関する基本方針に照らし、「大規模買付行為への対応方針」（以下「本対応方針」といいます。）として継続することを決議し、平成23年6月24日開催の第64期定時株主総会において本対応方針について承認を得ております。

本対応方針は、（ ）特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は（ ）結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（以下かかる買付行為を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。）が行われる場合に、大規模買付者が当社取締役会に対して大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を事前に提供し、かつ当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、取締役会又は株主総会による対抗措置の発動・不発動の決議後にのみ大規模買付行為を開始する、という大規模買付ルールに順守を大規模買付者に求める一方で、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大規模買付行為を新株予約権の無償割当て等を利用することにより抑止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的とするものです。

大規模買付行為が行われる場合、まず、大規模買付者には、当社取締役会宛に大規模買付者及び大規模買付行為の概要並びに大規模買付ルールに従う旨が記載された意向表明書を提出することを求めます。さらに、大規模買付者には、当社取締役会が当該意向表明書受領後10営業日以内に交付する必要情報リストに基づき株主の皆様の判断並びに当社取締役会及び独立委員会の意見形成のために必要な情報の提供を求めます。

次に、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し前述の必要情報の提供を完了した後、60日間又は90日間（最長30日間の延長がありえます。）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間とし、当社取締役会は、当該期間内に、外部専門家等の助言を受けながら、大規模買付者から提供された情報を十分に評価・検討し、後述の独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会としての意見を取りまとめて公表します。

当社取締役会は、本対応方針を適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断を防止するための諮問機関として、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役及び社外有識者の中から選任された委員からなる独立委員会を設置し、大規模買付者が大規模買付ルールを順守しないため対抗措置を発動すべきか否か、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるため対抗措置を発動すべきか否か等の本対応方針に係る重要な判断に際しては、独立委員会に諮問することとします。独立委員会は、対抗措置の発動もしくは不発動の勧告又は対抗措置の発動の可否につき株主総会に諮るべきである旨の勧告を当社取締役会に対し行います。

当社取締役会は、前述の独立委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の発動もしくは不発動の決議又は株主総会招集の決議その他必要な決議を行います。対抗措置の発動の可否につき株主総会において株主の皆様にお諮りする場合には、株主総会招集の決議の日より最長60日間以内に当社株主総会を開催することとします。対抗措置として新株予約権の無償割当てを実施する場合には、新株予約権者は、当社取締役会が定めた1円以上の額を払い込むことにより新株予約権を行使し、当社普通株式を取得することができるものとし、当該新株予約権には、大規模買付者等による権利行使が認められないという行使条件や当社が大規模買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項等を付すことがあるものとして、また、当社取締役会は、取締役会又は株主総会が対抗措置を発動することを決定した後も、対抗措置の発動が適切でないと判断した場合には、独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、対抗措置の発動の停止又は変更を行うことがあります。当社取締役会は、前述の決議を行った場合は、適時適切に情報開示を行います。

本対応方針の有効期限は、平成23年6月24日開催の第64期定時株主総会の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。なお、本対応方針の有効期間中であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から、関係法令の整備や、金融商品取引所が定める上場制度の整備等を踏まえ随時見直しを行い、本対応方針の変更を行うことがあります。

具体的取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

イに記載した当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組みは、イに記載した通り、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための具体的方策であり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。

また、ロに記載した本対応方針も、ロに記載した通り、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために継続されたものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。特に、本対応方針は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置し、対抗措置の発動又は不発動の判断の際には取締役会はこれに必ず諮問することとなっていること、必要に応じて対抗措置発動の可否について株主総会に諮ることとなっていること、本対応方針の有効期間は3年であり、その継続については株主の皆様のご承認をいただくこととなっていること等その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされている点において、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、以下の文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。
(特定の取引先・製品・技術等への依存)

当社グループの原子力分野は、国家の政策による影響が大きく、事故の発生、世論の変化などの外的要因による国策の変更により、大幅に影響を受ける恐れがあります。

5 【経営上の重要な契約等】

技術受入契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
木村化工機株式会社(当社)	SNEラ・カレーネ社	フランス	カレーネ製品	日本国内販売	昭和48年3月から特に定めなし
木村化工機株式会社(当社)(注)1	SNEラ・カレーネ社	フランス	カレーネ社製品の一部	日本国内製作販売	昭和52年1月から特許期限まで
木村化工機株式会社(当社)(注)2	ニュークリア・アシュアランス社	アメリカ	BWR使用済チャンネルボックス減容設備	日本国内製作販売	昭和57年1月から7年間、但し契約期間満了の30日前までに解除通告なき場合は1年ずつ自動延長
木村化工機株式会社(当社)(注)3	フィシャー社	アメリカ	弗素樹脂加工技術及び同技術使用製品	技術の導入及び同技術使用製品の北米以外への販売	平成4年2月から特に定めなし
木村化工機株式会社(当社)	エカート社	ドイツ・日本	攪拌機、ミキサー等のエカート社製品	エカート社製品の販売	平成6年10月から暦年末の3ヵ月前までに通告なき場合は、1年ずつ自動延長
木村化工機株式会社(当社)	ブッス社	スイス	SAMVAC超高温真空蒸発設備	SAMVAC超高温真空蒸発設備の導入	平成7年9月(再契約)から特に定めなし
木村化工機株式会社(当社)	クラレックス社	オランダ	流動層型熱交換器	技術提携契約	平成6年10月から特に定めなし
木村化工機株式会社(当社)	ピアッジ社	スイス	水素化技術	日本国内販売契約	平成19年10月から平成22年12月まで、その後毎年更新

- (注) 1 ロイヤルティ 販売価格の10%
 2 頭金 US\$25,000
 ロイヤルティ 第1基目 US\$35,000
 第2基目 1 日本国内特許取得前 US\$10,000
 2 日本国内特許取得後 US\$20,000
 3 イニシャルペイメント US\$20,000
 コンサルタント料 実費

6 【研究開発活動】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、自社が得意とする複合機器のエンジニアリング技術や材料評価技術(防食、材料選定)を基に、産学官連携事業の活用やユーザーと密接に連携した技術開発を行うことが必要と考え、新製品・新プロセス及び設備診断技術などについて積極的な研究開発活動を展開しております。中長期的には、開発部及び各事業部の技術部門によって推進しており、その促進機関として、各分野別の開発委員会と全体を対象とした総合開発委員会を設けております。また、短期的には、各事業部が日常的な用途開発を開発部と連携しながら、中期経営計画の業務別施策の中で実施しています。

分野としては、社会問題となっている「地球温暖化」「資源の枯渇」「エネルギー問題」を対象に、省エネルギー、環境リサイクル、バイオ燃料及び設備診断技術の技術開発を行っています。

研究開発従事者は、各事業部技術部門を含めると約20名となり、これは総従業員数の約5%に当たります。当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は118百万円であります。当連結会計年度におけるセグメントの研究開発状況及び研究開発費は次のとおりであります。

(1) エンジニアリング事業

水熱反応利用技術の普及と用途開発

広い分野に利用できる水熱反応技術について、主に有機反応、無機物の改質、有機物の高速加水分解分野で納入実績を上げております。最近では、食品分野での有機固形物の水熱反応処理によって、有効成分を抽出して高付加価値製品へ転換する具体案件が出てきており、今後の実用化に注力しています。

バイオディーゼル燃料(BDF)製造装置

本技術については、食料と競合しない原料も含め、原料の多様化に対応する技術開発が、ほぼ終了しており、現在、WWFC(世界燃料憲章)におけるBDF燃料ガイドラインに準拠したERIA(東アジア統一燃料品質規格)に向けての高品質化技術の開発に産業総合技術研究所と共に取り組んでおります。実績としては、廃食油原料や菜種油原料の大型製造設備を国内で積み重ねており、東南アジアでのパーム油やジャトロファ油を原料とした高品質BDF製造技術の実用化にも取り組んでおります。

膜分離・濃縮装置

分子の大きさで分離する膜濃縮は、熱を使い相変化が必要な蒸発濃縮に比べ、画期的な省エネ効果を生み出すことが可能となります。この技術は環境、エネルギー、食品、水、医療・医薬等に直結した技術であり、プロセスラインや廃液処理に適用することで、従来の当社主力製品である蒸発濃縮装置との組み合わせで、さらに競争力を向上させます。

省エネルギー蒸留塔

経済産業省及びNEDOの委託事業として他協力企業・機関と共に産学官連携の下に内部熱交換型蒸留塔(HIDIC)という新しい省エネルギータイプの蒸留塔の実用化開発を行ってきました。この成果は商業規模のパイロットプラントの実証テストの成功により理論及び実際の面から認知されております。現在、当社の省エネ技術の一つのアイテムとして、産業技術総合研究所をはじめ、外部機関とも連携を図り、国内での実績を積むべく、営業展開をしております。

その他

我が国では、2020年までに1990年比で温室効果ガスを25%削減する中期目標が掲げられています。さらに今回の大震災により、エネルギー転換が加速し、太陽光、風力、地熱、バイオマス（バイオ燃料）などの再生可能エネルギーの利用が大幅に増えると思われれます。当社もバイオディーゼル燃料だけでなく、木質バイオマスを原料とするエタノール製造設備（森林総合研究所のプロジェクト）の開発も進めております。その他、化学機械装置関連の研究開発テーマとして、「化学プラント材料の余寿命評価技術」、「腐食モニタリング技術」、「フッ素ライニング熱交換器」、「2軸乾燥機」等の開発を進めております。

上記に係る研究開発費は、115百万円であります。

(2) エネルギー・環境事業

・ 小型電気ボイラー

従来の燃料焚きボイラーや電気ヒーター式ボイラーとは原理的に異なる電極式で、排ガスや温暖化ガス(CO₂)を発生しない環境調和型、かつ空焚き等の心配の無い安全なボイラーです。現在は発電所やプラント用の大型機しかないため、市場が多い小型ボイラーの開発を進めております。

上記に係る研究開発費は、3百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって留意すべき事項の詳細につきましては、「第5 経理の状況」を御参照下さい。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析及び経営成績に重要な影響を与える要因について

当連結会計年度の経営成績の分析及び経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」を御参照下さい。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産、負債及び資本の状況

(資産)

流動資産は10,727百万円と前連結会計年度末に比べ1,020百万円の減少(8.7%)となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が646百万円、仕掛品が647百万円減少したことによります。

固定資産は6,655百万円と前連結会計年度末に比べ90百万円の微増(+1.4%)となりました。

この結果総資産は17,383百万円と前連結会計年度末に比べ930百万円の減少(5.1%)となりました。

(負債)

流動負債は7,923百万円と前連結会計年度末に比べ1,402百万円の減少(15.0%)となりました。これは主として未払法人税等が848百万円減少したことによります。

固定負債は3,313百万円と前連結会計年度末に比べ183百万円の増加(+5.9%)となりました。これは主として退職給付引当金が177百万円増加したことによります。

この結果負債合計は11,236百万円と前連結会計年度末に比べ1,218百万円の減少(9.8%)となりました。

(純資産)

純資産合計は6,146百万円と前連結会計年度末に比べ288百万円の増加(+4.9%)となりました。これは主として利益剰余金が304百万円増加したことによります。

この結果当連結会計年度末の自己資本比率は35.4%となりました。

キャッシュ・フローの状況

「キャッシュ・フローの状況」につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」を御参照下さい。

(4) 戦略的現状と見通し及び経営者の問題認識と今後の方針について

戦略的現状と見通し及び経営者の問題認識と今後の方針につきましては、「第2 事業の状況 3 対処すべき課題」をご参照下さい。

第3 【設備の状況】

以下、「第3 設備の状況」における各事項の記載については、消費税等は含んでおりません。

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）の設備投資につきましては、「生産設備の充実」を基本に考えておりますが、当連結会計年度は、主として四国事業所の事務所・工場の改築及び各種機械器具の更新等に193百万円の設備投資を実施いたしました。

セグメントごとの設備投資の内訳は次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)
エンジニアリング事業	30
化工機事業	85
エネルギー・環境事業	11
全社(共通)	67

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具 器具及 び備品	土地 (面積㎡)	リース 資産 (有形)	建設 仮勘定	合計	
本社 (兵庫県尼崎市)	全社(共通)	その他 設備	510	15	16	2,550 (20,690)	68	-	3,161	62
尼崎工場 (兵庫県尼崎市)	エンジニアリン グ事業、エネル ギー・環境事業	生産 設備	554	36	13	- (-)	-	-	604	62
東海事業所 (静岡県駿東郡 長泉町他)	化工機事業	生産 設備	20	0	1	135 (2,553)	-	-	158	16
中国事業所 (山口県 周南市他)	化工機事業	生産 設備	40	1	0	218 (4,595)	1	-	261	21
四国事業所 (愛媛県伊予郡 松前町他)	化工機事業	生産 設備	105	1	3	362 (8,720)	-	-	472	39
九州事業所 (大分県大分市)	エンジニアリン グ事業、化工機 事業	生産 設備	80	10	8	230 (11,374)	-	-	329	46

(注) 提出会社の本社と尼崎工場は同敷地内にあるため、土地については本社に含めております。

(2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)	
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地 (面積㎡)	リース 資産 (有形)	建設 仮勘定		合計
三原木村工機株 (広島県三原市 他)	化工機事業	生産 設備	35	2	3	52 (598)	-	-	93	17

(注) 連結子会社東北木村工機株式会社は、自己で所有する主要な設備はありません。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

(注) 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備として、以下のものがあります。

(提出会社)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	名称	台数	リース 期間	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
本社 (兵庫県尼崎市)	全社(共通)	その他 設備	コンピュータ システム	1セッ ト	5年間	14	7

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ(当社及び連結子会社)の設備投資については、投資の採算を考慮し計画しておりますが、現状では設備の合理化・更新がほとんどであります。

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設に係る投資予定額は303百万円であり、その所要資金については借入金及び自己資金又はファイナンス・リースにより賄う予定であります。

重要な設備の新設等の計画は、以下のとおりであります。

(新 設)

(提出会社)

事業所名	セグメントの 名称	設備の 内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の増加 能力、必要性等
			総額	既支払額		着手	完了	
九州事業所 (大分県大分市)	エンジニアリン グ事業、化工機 事業	機械装置	49	-	自己資金	平成23年 4月	平成24年 3月	生産設備の更新
本社 (兵庫県尼崎市)	全社(共通)	ERPソフト ウェア他	32	-	自己資金	平成23年 4月	平成25年 3月	ソフトウェアの 更新等

(除 却)

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	82,400,000
計	82,400,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,600,000	20,600,000	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、 100株であります。
計	20,600,000	20,600,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
昭和45年10月1日	7,010	20,600	350	1,030	13	103

(注) 有償

株主割当(1:0.5)	6,795千株
発行価格	50円
資本組入額	50円
一般募集	215千株
発行価格	115円
資本組入額	50円

(6) 【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	1	29	34	132	38	7	11,410	11,651	
所有株式数(単元)	220	30,979	3,449	33,020	10,353	87	127,841	205,949	5,100
所有株式数の割合(%)	0.11	15.04	1.67	16.03	5.07	0.04	62.08	100.00	

- (注) 1 自己株式19,595株は、「個人その他」に195単元、「単元未満株式の状況」に95株含まれております。
2 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が130単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1	997	4.84
木村化工機関連グループ持株会	兵庫県尼崎市杭瀬寺島2-1-2	759	3.68
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行 決済営業部)	12 NICOLAS LANE LONDON EC4N 7BN U.K. (東京都中央区日本橋兜町6-7)	730	3.54
株式会社 奥村組	大阪市阿倍野区松崎町2-2-2	619	3.01
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	613	2.98
住友信託銀行株式会社	大阪市中央区北浜4-5-33	600	2.91
小林 薫	大阪府豊中市	450	2.19
木村 孝吉	兵庫県芦屋市	381	1.85
木村 真理子	兵庫県芦屋市	301	1.46
株式会社 クラレ	岡山県倉敷市酒津1621	279	1.36
計		5,731	27.82

- (注) 1 当事業年度末現在における、住友信託銀行株式会社の信託業務に係る株式数については、当社として把握することができません。
2 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社及びその共同保有者である住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社及び日興アセットマネジメント株式会社から平成23年4月20日付で提出された大量報告書により、平成23年4月15日(報告義務発生日)現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株式等保有割合(%)
住友信託銀行株式会社	大阪市中央区北浜4-5-33	840	4.08
中央三井アセット信託銀行株式会社	東京都港区芝3-23-1	195	0.95
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー	29	0.14
計		1,065	5.17

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,575,400	205,754	
単元未満株式	普通株式 5,100		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	20,600,000		
総株主の議決権		205,754	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が13,000株(議決権130個)含まれております。なお、名義人以外から株券喪失登録のあった株式はありません。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 木村化工機株式会社	兵庫県尼崎市杭瀬寺島 2 1 2	19,500		19,500	0.09
計		19,500		19,500	0.09

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区 分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	78	45,840
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区 分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	19,595		19,595	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、企業業績に応じた配当政策を実施することを基本方針としております。今後も、中長期的な視点に立って、持続的な成長及び企業価値の向上ならびに株主価値の増大に努めてまいります。

当社は、剰余金の配当を年1回期末配当として行うことを基本方針としており、この期末配当の決定機関は取締役会であります。

当事業年度の期末配当金につきましては、当期の業績に鑑み、上記基本方針に基づき、1株につき通期普通配当5円とし、支払開始日を6月7日とさせていただきます。内部留保につきましては、経営基盤の強化と新規事業展開のための資金需要に備えることとしております。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成23年5月27日 取締役会決議	102	5.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	754	1,950	1,347	1,103	911
最低(円)	210	453	396	665	341

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年 10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	3月
最高(円)	559	559	648	709	680	638
最低(円)	505	519	541	614	587	341

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長	代表取締役	小林 康 眞	昭和21年6月20日生	昭和47年3月 平成7年5月 平成11年3月 平成12年6月 平成15年6月 平成18年6月 平成19年6月 当社入社 当社調達部長 当社原子力事業部尼崎工場長兼製造部長 当社取締役 当社常務取締役 当社専務取締役 当社代表取締役社長(現職)	(注)4	150
常務取締役	化工機事業部長兼エネルギー・環境事業部管掌、安全衛生強化担当	森岡 利 信	昭和23年9月13日生	昭和46年3月 昭和61年5月 平成6年4月 平成7年12月 平成11年4月 平成17年6月 平成22年6月 当社入社 当社西条出張所長 当社事業所本部四国事業所長 当社化工機事業部四国事業所長兼西条出張所長 当社化工機事業部四国事業所長 当社取締役 当社常務取締役(現職)	(注)4	10
常務取締役	管理部門長兼秘書室長、安全衛生管理室担当	谷本 周 平	昭和25年5月7日生	昭和48年4月 平成10年6月 平成12年6月 平成14年6月 平成15年6月 平成18年7月 平成19年6月 平成22年6月 住友信託銀行(株)入社 同社新潟支店長 同社大宮支店長 (株)総合ビルマネジメント取締役 アーバンサービス(株)代表取締役 当社理事[管理部門部門長付] 当社取締役 当社常務取締役(現職)	(注)4	9
取締役	東京支店長兼エネルギー・環境事業部長	山田 静 雄	昭和23年7月30日生	昭和59年6月 平成12年6月 平成14年4月 平成18年6月 当社入社 当社原子力事業部東京営業部長 当社原子力事業部東京営業部長兼MOXプロジェクト(営業部長) 当社取締役(現職)	(注)4	9
取締役	製造部門長、品質保証部担当	小舟 博 文	昭和24年11月25日生	昭和47年3月 平成14年4月 平成15年7月 平成17年1月 平成18年6月 平成20年6月 当社入社 当社製造部長 当社尼崎工場長 当社品質保証部長 当社総務部長 当社取締役(現職)	(注)4	11
取締役	業務部門長兼企画室長	福田 正 行	昭和25年6月12日生	昭和49年3月 平成15年7月 平成16年4月 平成17年7月 平成20年6月 当社入社 当社製造部長 当社工務部長 当社尼崎工場長 当社取締役(現職)	(注)4	7
取締役	エンジニアリング事業部長兼技術部長、開発部担当	矢野 謙 介	昭和26年4月4日生	昭和49年3月 平成18年6月 平成21年6月 当社入社 当社エンジニアリング事業部技術部長 当社取締役(現職)	(注)4	7
取締役	法務室長、内部統制担当	梅澤 茂	昭和25年9月16日生	昭和50年4月 平成11年7月 平成15年4月 平成17年6月 平成22年9月 平成23年6月 住友電気工業株式会社入社 同社法務部次長 同社監査部長 同社監査役室長 当社上席執行役員副管理部門長 当社取締役(現職)	(注)4	5
取締役		山崎 幹 男	昭和23年7月22日生	昭和42年4月 平成17年3月 平成20年10月 平成20年11月 平成21年4月 平成22年6月 兵庫県警察入庁 兵庫県警察警視 兵庫県警察退職 当社顧問 財団法人暴力団追放兵庫県民センター講師(現任) 当社取締役(現職)	(注)4	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	常勤	喜多 芳文	昭和26年10月10日生	昭和50年4月 平成19年6月 平成23年6月	当社入社 当社経理部長 当社常勤監査役(現職)	(注)5	4
監査役		曾我 乙彦	昭和12年9月13日生	昭和41年4月 昭和53年11月 平成13年6月	弁護士登録 曾我乙彦法律事務所開設 当社監査役(現職)	(注)6	
監査役		田中 圭子	昭和30年7月15日生	平成元年3月 平成元年6月 平成16年6月	税理士登録 田中圭子税理士事務所開設 当社監査役(現職)	(注)6	
計							213

- (注) 1 取締役山崎幹男は、会社法第2条第15号に定める「社外取締役」であります。
- 2 監査役曾我乙彦、田中圭子の両名は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。
- 3 当社は、取締役山崎幹男及び監査役田中圭子を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。
- 4 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役喜多芳文の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役(注5を除く)の任期は、平成20年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各事業部の業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。
- 執行役員は計10名で、企画室長付木谷秀数、エンジニアリング事業部副事業部長小川和男、管理部門副部門長(総務担当)浮田幹夫(以上上席執行役員3名)、エンジニアリング事業部事業部長補佐天野太一、エネルギー・環境事業部副事業部長兼清貢、業務部門副部門長兼業務部長大村良文、業務監査室長公手正、エンジニアリング事業部制御技術室長高石泰宏、化工機事業部中部事業所長植松善男、化工機事業部四国事業所長玉井彰(以上執行役員7名)で構成されております。
- 8 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は以下の通りであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
荒川 雄次	昭和39年8月5日生	平成9年4月 平成20年11月	弁護士登録 曾我乙彦法律事務所入所 荒川雄次法律事務所開設(現職)	(注)9	

- 9 補欠監査役の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンス体制

イ．コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値及び株主共同利益を向上させ、企業の社会的責任を果たすために、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題の一つと位置づけ、迅速・正確かつ透明・適正な経営の実現に努めております。

- 1) 取締役会は、経営執行及び監督の最高機関であり、その機能の確保のため毎月開催しております。
- 2) 監査役は、独立の機関として、監査方針及び監査計画に基づき、取締役の職務執行を監査しております。
- 3) 併せて、当社は社外取締役及び社外監査役による監督・監視機能の強化を図っております。

ロ．コーポレート・ガバナンス体制の概要

1) 取締役及び取締役会

取締役会は、社外取締役1名を含む9名の取締役によって構成しております。各取締役は原則として毎月1回開催される取締役会に出席し、法令・定款で定められた事項や経営に関する重要項目を決定するとともに、リスク管理の状況を検証し、業務執行取締役の執行状況を監督しております。

なお、経営環境の変化に機動的に対応可能な経営体制を構築するとともに取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期は1年としております。また、取締役会の意思決定の適正性・妥当性及び業務執行の監督機能の一層の強化を図るため、社外取締役を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

前事業年度、取締役会は12回開催いたしました。

2) 監査役及び監査役会

監査役会は、常勤監査役1名、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定める独立性の基準を満たす社外監査役2名によって構成し、このうち、社外監査役1名を独立役員として両取引所に届け出ております。各監査役は、監査方針及び監査計画に従い、取締役の業務執行及びコーポレート・ガバナンスの運営状況等を監査するとともに、原則として毎月1回開催される監査役会及び取締役会に出席しております。また、監査役は、必要に応じて、会計監査人や業務監査室と緊密な連携を図っております。

なお、監査役監査がより実効的に行われるため、監査役から補助使用人の要請があった場合は、取締役会で検討したうえで配置することとしております。

前事業年度、監査役会は10回開催いたしました。

3) 経営会議

取締役全員によって構成する経営会議は、原則として毎月2回開催され、常勤監査役も出席しております。経営会議では、取締役会決議事項以外の事項及び取締役会決議事項の事前審査を通じて、経営の迅速な意思決定を図っております。

前事業年度、経営会議は22回開催いたしました。

4) 執行役員制度

執行役員制度は、経営の効率化・意思決定の迅速化と業務執行体制の強化を図ることを目的として導入しております。執行役員は上席執行役員及び執行役員から構成され、取締役会が指定した業務を担当取締役の統括・監督のもとに執行いたします。提出日現在、執行役員は10名を選任しており、その選任・解任は、取締役会が決定し、任期は最長1年としております。

なお、取締役は、執行役員を兼務いたしません。

5) 業務監査室

業務監査室は、代表取締役社長直轄の組織として、社長の指示に基づき、社内の全部署、全業務について内部監査を行っております。

6) 独立委員会

独立委員会は、当社が定める「大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）」を適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止するための諮問機関として設置いたしました。独立委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外役員及び社外有識者（弁護士、学識経験者）によって構成しております。

7) コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、取締役会直轄の組織として、担当取締役をチーフとし、各部署代表の委員によって構成しております。社内コンプライアンス体制をさらに有効、強固なものとし、法令遵守の企業風土を確固たるものとするを目的としております。

8) 情報セキュリティ委員会

情報セキュリティ委員会は、取締役会直轄の組織として、当社及びお取引先の機密情報のセキュリティに万全を期すことを目的としております。

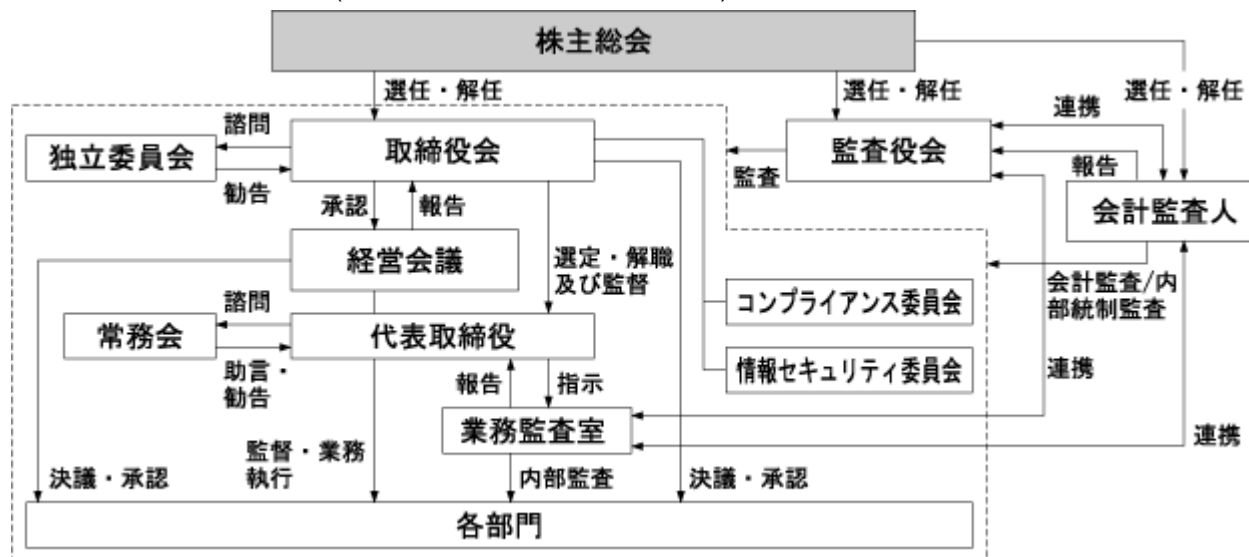
八．企業統治の体制を採用する理由

当社は、取締役会の意思決定の適正性・妥当性及び業務執行の監督機能の一層の強化を図るため、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定める独立性の基準を満たす社外取締役を選任しております。社外取締役は経営陣から独立した立場で、内部統制システムの構築、反社会的勢力との関係を遮断するための体制、危機管理体制などに関する案件を審議しております。

監査役監査につきましては、各監査役はそれぞれ、法務及び財務・会計等に関して専門的知見を有し、主として取締役の法令又は定款違反等について監査する違法性監査に止まらず、客観的・中立的立場から経営課題全般に亘って妥当性に関する助言・提言を行い、経営監視機能を果たしております。また、各監査役は、必要に応じて、社内の各部署に対し、監査に必要な資料の閲覧・提出、質問への回答等求める他、監査の実効性向上のため監査役から要請があった場合は補助使用人を配置することとしております。

以上より、当社は、主として監査役の機能を有効に活用し、経営の監督・監査面で十分に機能する体制を構築しております。

二．ガバナンス体制(会社の機関・内部統制の関係図)



ホ．内部統制システムの整備の状況

内部統制システムの整備の状況は、次のとおりです。

1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・ 当社取締役及び使用人は、当社行動指針に基づき、社会人として、企業人として当然に求められる倫理観、価値観に基づいて行動することを基本とする。
- ・ 取締役は、それぞれの担当部門において、社会規範、法令、社内ルールの遵守について自ら範を示しつつ部門内の指導を徹底することを第一の責務と認識する。併せて、毎月2回の経営会議には取締役のほか常勤監査役が、毎月1回の取締役会には、さらに2名の社外監査役も出席して、代表取締役以下各取締役の業務執行状況、リスク管理の状況、法令・社内規則の遵守状況等を検証するとともに、取締役相互の牽制機能の有効性を確認する。
- ・ 社内コンプライアンス体制をさらに有効、強固なものとするために、取締役をチーフとし、各部署代表の委員から成るコンプライアンス委員会の活動を継続する。代表取締役以下、全取締役がこの活動を支持し、協力して社内を指導することによって法令遵守の企業風土を確固たるものとする。
- ・ 業務監査室は代表取締役社長直轄の組織として、社長の指示に基づき、社内の全部署、全業務について内部監査を行う。
- ・ 法令遵守上、疑義のある行為については、取締役及び使用人が特定の社内又は社外の機関に相談・通報できる制度を設けてコンプライアンス体制の有効性を高める。

2) 財務報告の適正性を確保する体制

- ・ 取締役及び使用人は「財務報告に係る内部統制の基本方針」を遵守した業務執行により財務報告の適正性を確保する。
- ・ 取締役及び使用人は、財務報告の重要事項に虚偽記載が発生するリスクを識別・分析し、低減させるための適切な体制の運用・整備・改善を行うとともに、各事業年度において財務報告の適正性を確保する体制を評価し、その結果を報告する。

3) 反社会的勢力との関係を遮断するための体制

- ・取締役及び使用人は、「反社会的勢力による被害防止のための基本方針」及び同基本方針に基づき制定された「反社会的勢力による被害防止規程」を遵守し、反社会的勢力との関係を遮断する。
- ・取締役及び使用人は、「反社会的勢力による被害防止規程」所定の業務を誠実に遂行し、反社会的勢力との関係を遮断するための体制の円滑な運用を確保する。
- ・業務監査室は、反社会的勢力との関係を遮断するための体制の運用を監査する。

4) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・各種、業務情報の取扱いと管理については、取締役及び使用人全員が「情報セキュリティ規程」、「文書管理規程」に基づいた運営を基本とする。
- ・特に取締役として管理又は共有すべき重要な経営情報に関しては、「文書管理システム」における「取締役専用ファイル」を活用した運用によって安全性、有効性を確保する。
- ・取締役及び使用人の情報管理の状況については、取締役を委員長とし各部署の代表を委員とする情報セキュリティ委員会にて検証し、必要に応じて改善提案を行う。

5) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ・重要な経営課題については、取締役会規則、経営会議規程、並びに決裁権限規程に則し、洩れなく取締役会、経営会議に上程して、その合理性、及びリスクの予測と対応策を審議する。
- ・営業案件、開発案件等については、リスク抑制のため、決裁者は決裁権限規程に従って可能な限り、関係部署と合議をしたうえで決裁判断をする。また、決裁案件が「経営リスク項目」に関係する場合は、より厳しい基準の決裁権限規程を適用する。
- ・日常業務で発生し得るリスクを回避、もしくは最小限度に抑える対策の1つとして、業務遂行関係規程の更なる充実を図る。

6) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・取締役会(月1回)、経営会議(月2回)を開催して各取締役の担当業務に関する報告と審議を行う。
- ・別途、社長以下、各担当取締役も出席する定例の営業会議、プロジェクト会議、研究開発会議、品質管理会議において、業務の効率性、合理性、リスク対応を検証する。
- ・決裁権限規程上、可能な限り権限委譲を行い、決裁のスピードアップ・効率化を図る。

7) 当社と子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・当社(親会社)と子会社4社から成る当社企業集団がグループ全体としても適正に業務を行うために、当社の取締役又は使用人が子会社の取締役を兼務して監督し、親会社の取締役会、経営会議にて毎月の業務状況を報告・審議する。
- ・当社の業務遂行関係規程、インサイダー取引防止に関する規則、その他の規程等、内部統制の体制はほぼ同様の内容で子会社にも適用する。
- ・会計監査人及び当社業務監査室は子会社も監査対象として、その会計処理状況、その他法令・社内諸規則の遵守状況、リスク管理の状況等を検証する。

8) 監査役がその職務を補助すべき使用人(補助使用人)を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

- ・監査役より補助使用人の要請があった場合は、取締役会で検討したうえで配置する。

9) 補助使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の要請に基づいて補助使用人を配置する場合、補助使用人は当然に取締役から独立し、専ら監査役の指示命令に従うものとする。

10) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

・各種の経営課題、主要な申請事項、日常の業務執行状況については、監査役も出席する毎月の取締役会、経営会議にて各担当取締役より報告を行う。

・主要な申請事項その他社内の重要な事項について、監査役は、随時、関係書類の閲覧と報告を受けることができることとする。

・当社経営に著しい影響を及ぼすおそれのある事態が発生した場合、取締役の職務遂行に関して不正行為、重大な法令違反等の事実が判明した場合には、直ちに、担当取締役より監査役あて報告を行う。

11) その他、監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・取締役は、法令・定款、並びに当社の「監査役会規則」、「監査役監査基準」に定める監査役の職責と権限をよく理解し、同時に監査役監査の重要性を十分認識したうえで監査役監査が有効に行われるための環境整備を行う。

・監査役は必要に応じ、業務監査室、企画室、経理部、総務部、情報システム部ほか、社内各部署に対し、監査に必要な資料の閲覧・提出、質問への回答等、監査への協力を求めることができるものとし、同時に、協力を求められた部署は必ずこれに応じるものとする。

・監査役は、監査の品質・効率を高めるため、適宜、会計監査人と情報・意見交換等の緊密な連携を図ることができるほか、弁護士その他、社外の専門家に随時、相談できるものとする。

へ．リスク管理体制の整備状況

当社では、重要な経営課題については、「取締役会規則」、「経営会議規程」及び「決裁権限規程」に則し、洩れなく取締役会、経営会議に上程して、その合理性及びリスクの予測と対応策を審議することとしております。営業案件、開発案件等については、リスク抑制のため、決裁者は決裁権限規程に従って可能な限り、関係部署と合議をしたうえで決裁判断をし、決裁案件が「経営リスク項目」に係る場合は、より厳しい基準の「決裁権限規程」を適用しております。また、日常業務で発生し得るリスクを回避もしくは最小限度に抑える対策の1つとして「業務遂行関係規程」の更なる充実を図っております。

ト．社外取締役及び社外監査役との責任限定契約の概要

当社と社外取締役及び社外監査役とは、社外取締役又は社外監査役が任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を当社との間で締結しております。

その契約内容の概要は次のとおりであります。

1) 社外取締役又は社外監査役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償を負う場合は、会社法425条第1項の最低責任限度額を限度としてその責任を負う。

2) 上記の責任限度が認められるのは、社外取締役又は社外監査役がその責任の原因となった職務の遂行について、善意かつ重大な過失がないときに限るものとする。

内部監査、監査役監査及び会計監査の状況

イ．内部監査

当社は、代表取締役社長直轄の組織として3名体制の業務監査室を設置し、社長の指示に基づき、社内全部署、全業務について内部監査を行っております。内部監査につきましては、年次計画書に基づき当社及び子会社の業務全般の適正に関して実施し、その結果は社長に報告され、被監査部署に業務改善の提言・勧告をしております。

ロ．監査役監査

1) 監査役は、取締役の業務執行及びコーポレート・ガバナンスの運営状況等を監査しております。具体的には、常勤監査役1名、社外監査役2名によって監査役会を構成し、各監査役は、事業年度毎に策定した監査方針、監査計画に従い、取締役会その他重要な会議に出席し、各種の経営課題、主要な申請事項、日常の業務執行状況について各担当取締役より報告を受け、さらに、主要な申請事項その他社内の重要な事項については、随時、関係書類の閲覧と報告を受けることにより、取締役の法令又は定款違反や一般株主の利益侵害の有無について監査しております。

2) 常勤監査役喜多芳文氏及び監査役田中圭子氏は、次のとおり財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

・常勤監査役喜多芳文氏は、長年に亘り当社経理部に在籍し、決算手続及び財務諸表の作成等に従事しております。

・監査役田中圭子氏は、税理士の資格を有しております。

ハ．内部監査、監査役監査及び会計監査の連携状況

1) 内部監査と監査役監査の連携状況

業務監査室は、内部監査計画及びその実施状況について監査役に説明し意見交換・情報交換等を行っております。また、業務監査室は監査役会に定期的に監査結果の報告をするほか、監査役から要請を受け、代表取締役が必要ありと判断し、その旨の指示をした場合、臨時監査を実施し、その結果を監査役会に報告しております。

2) 監査役監査と会計監査の連携状況

監査役と会計監査人とは、四半期毎に会合を持ち、監査役は会計監査人から監査手続・日程に関する監査計画及び事業年度を通じての監査方法とその結果に関する説明を受け、意見交換・情報交換等を行っております。

3) 内部監査と会計監査の連携状況

業務監査室が実施した内部統制の有効性評価等について、会計監査人は業務監査室と相互に意見交換や情報の共有を行うことで適宜、連携しております。

4) 内部監査、監査役監査及び会計監査と内部統制部門との関係

業務監査室、監査役、会計監査人と経理部は、定期的に打合せをし、内部統制に関する報告・意見交換等を実施しております。業務監査室及び監査役は、それぞれ内部監査及び監査役監査の手続において、その他の内部統制部門と意思疎通を図り、会計監査人も経理部を通じてその他の内部統制部門と必要に応じて意見交換等を行っております。

社外取締役及び社外監査役

イ．社外取締役及び社外監査役の員数並びに社外取締役及び社外監査役と当社との人的・資本的関係又は取引関係その他の利害関係

当社の社外取締役は1名であり、社外監査役は2名であります。

当社と社外取締役の山崎幹男氏及び社外監査役の田中圭子氏とは、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また、当社と社外監査役曾我乙彦氏が代表パートナー弁護士を務める曾我乙彦法律事務所とは顧問契約を締結しており、顧問料を支払っておりますが、同契約はいわゆる第三者との取引であり、顧問料も社会通念上、相当な範囲内の金額であることから、当社と曾我乙彦氏とも人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

ロ．社外取締役・社外監査役との関係と選任理由

当社は、社外取締役・社外監査役が期待される機能及び役割を果たすため、次のとおり選任基準を設けて、社外取締役及び社外監査役の独立性を確保しております。

（社外取締役の選任基準）

- 1) 社外取締役は、経営の監督機能強化に必要な出身分野における実績と見識を有すること。
- 2) 取締役会の意思決定の適正及び経営の監督機能強化の実現を図るため、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定める独立役員の基準を満たしていること。

山崎幹男氏は、警察出身者として危機管理や反社会的勢力との関係遮断などを含む組織運営に関する豊富な実績と見識を有し、それらを当社経営に反映させるとともに、経営の監督機能強化を推進していただいております。

（社外監査役の選任基準）

- 1) 社外監査役は、監査役監査の品質の向上に必要な専門分野における知識と経験を有すること。
- 2) 監査役監査の客観性・中立性を確保し、経営の透明性を図るため、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定める独立役員の基準を満たしていること。

曾我乙彦氏は、弁護士として法務に関する高い専門知識と豊富な経験を有し、それらによって監査役監査の品質を向上させるとともに、客観性・中立性を確保し、経営の透明性を推進していただいております。

田中圭子氏は、税理士として財務・会計に関する高い専門知識と豊富な経験を有し、それらによって監査役監査の品質を向上させるとともに、客観性・中立性を確保し、経営の透明性を推進していただいております。

ハ．社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との連携並びに内部統制部門との関係

1) 社外取締役による監督と内部監査、監査役監査及び会計監査との連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、監督業務を実効性あるものとするために、業務監査室からは内部監査計画及びその実施状況並びに内部統制システムの運用状況の報告を、監査役及び会計監査人からは監査報告を定期的に受けることにより、当社の現状と問題点を把握し、必要に応じて取締役会において意見を表明しております。

2) 社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、取締役会、監査役会及び常勤監査役を通じて業務監査室による内部監査計画及びその実施状況並びに内部統制システムの運用状況の報告を、常勤監査役から会計監査人による監査計画報告書、四半期レビュー報告書等について説明を受けております。また、社外監査役と経理部は、定期的に打合せをし、内部統制に関する報告・意見交換等を実施する他、監査役監査の手続において、その他の内部統制部門と意思疎通を図っております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員 の員数(名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	128	96		11	20	10
監査役 (社外監査役を除く)	15	11		2	1	1
社外役員	10	8		1	0	3

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務取締役の使用人分給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額は、下記報酬総額の限度内において、各役員の経歴・職歴及び会社の経営成績・業界の水準等を勘案し相当と思われる額としております。

平成20年6月27日開催の第61期定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額180百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)、監査役の報酬限度額は年額36百万円以内と決議いただいております。

- (注) 1 上記には、平成22年6月25日開催の第63期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役3名を含んでおります。
2 取締役の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3 退職慰労金は、当事業年度に費用処理した役員退職慰労引当金繰入額であります。

株式保有の状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 30銘柄 貸借対照表計上額の合計額 549百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	具体的な保有目的
住友信託銀行(株)	263,500	144	金融機関との関係維持
(株)奥村組	365,000	119	取引先との関係維持
(株)中北製作所	107,000	72	取引先との関係維持
(株)名村造船所	87,000	42	取引先との関係維持
(株)クリヤマ	85,200	25	取引先との関係維持
帝人(株)	50,600	15	取引先との関係維持
東レ(株)	24,127	13	取引先との関係維持
富士フィルムホールディングス(株)	2,919	9	取引先との関係維持
(株)みずほフィナンシャルグループ	50,000	9	金融機関との関係維持
東海カーボン(株)	12,000	6	取引先との関係維持

(注) 富士フィルムホールディングス(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ及び東海カーボン(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位10銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	具体的な保有目的
(株)奥村組	419,000	146	取引先との関係維持
住友信託銀行(株)	263,500	115	金融機関との関係維持
(株)中北製作所	107,000	55	取引先との関係維持
クリヤマ(株)	85,200	42	取引先との関係維持
(株)名村造船所	87,000	36	取引先との関係維持
(株)イチネンホールディングス	60,000	24	取引先との関係維持
帝人(株)	50,600	18	取引先との関係維持
東レ(株)	24,127	14	取引先との関係維持
富士フィルムホールディングス(株)	3,368	8	取引先との関係維持
(株)みずほフィナンシャルグループ	50,000	6	金融機関との関係維持
東海カーボン(株)	12,000	4	取引先との関係維持
日本ゼオン(株)	4,729	3	取引先との関係維持
(株)くろがね工作所	57,000	3	取引先との関係維持
石原産業(株)	23,180	2	取引先との関係維持
ユニチカ(株)	31,980	2	取引先との関係維持
(株)T & Dホールディングス	800	1	取引先との関係維持
ダイソー(株)	5,000	1	取引先との関係維持
日本合成化学工業(株)	2,000	1	取引先との関係維持
ダイワボウホールディングス(株)	5,151	0	取引先との関係維持
第一生命保険(株)	7	0	取引先との関係維持
(株)りそなホールディングス	1,800	0	金融機関との関係維持

(注) 1. 富士フィルムホールディングス(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ、東海カーボン(株)、日本ゼオン(株)、(株)くろがね工作所、石原産業(株)、ユニチカ(株)、(株)T & Dホールディングス、ダイソー(株)、日本合成化学工業(株)、ダイワボウホールディングス(株)、第一生命保険(株)及び(株)りそなホールディングスは、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、当社の保有する当該投資株式が30銘柄に満たないため、記載しております。

2. 住友信託銀行株式会社は、平成23年4月1日付で中央三井トラスト・ホールディングス株式会社と株式交換を行い、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社の完全子会社となっております。

平成23年3月31日現在保有の住友信託銀行株式普通株式1株に付1.49株の割合をもって三井住友トラスト・ホールディングス株式会社普通株式が割当交付されております。

会計監査の状況

当社の財務諸表監査及び内部統制監査は大阪監査法人が実施しており、当連結会計年度において担当した公認会計士は池尻省三氏及び前田雅行氏であり、財務諸表監査及び会計業務監査に係る補助者は公認会計士等5名であります。

その他

イ．取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

ロ．取締役選任の決議要件

当社は、取締役選任の決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を、また、その決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

ハ．自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

ニ．剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の処分の額及び剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項の決定は、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議によって定め、株主総会の決議によっては定めない旨を定款で定めております。これは、配当政策をはじめ機動的な財務政策を遂行することを目的とするものであります。

ホ．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってこれを行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	24		24	
連結子会社				
計	24		24	

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度

該当事項はありません

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度

該当事項はありません

【監査報酬の決定方針】

前連結会計年度及び当連結会計年度

会計監査人に対する報酬の額の決定に関する方針は、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の財務諸表について、大阪監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下の通り連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

(1) 会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、同機構、公認会計士協会、監査法人その他の主体の行う研修やセミナーに参加して、会計基準等の改廃変更等の情報を収集し、適正な情報開示に努めております。

(2) 将来の国際会計基準の適用に備え、全社的課題等の具体化を図り、関連する社内規程等を整備するために、推進プロジェクトを立ち上げました。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	797	942
受取手形及び売掛金	8,598	7,951
仕掛品	⁶ 1,511	864
原材料及び貯蔵品	20	20
繰延税金資産	387	193
その他	716	859
貸倒引当金	284	105
流動資産合計	11,747	10,727
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	⁴ 1,442	⁴ 1,431
機械装置及び運搬具(純額)	⁴ 97	⁴ 69
工具、器具及び備品(純額)	⁴ 63	⁴ 50
土地	^{3, 4} 3,674	^{3, 4} 3,674
リース資産(純額)	40	69
有形固定資産合計	¹ 5,318	¹ 5,295
無形固定資産	242	204
投資その他の資産		
投資有価証券	² 570	² 582
繰延税金資産	368	506
その他	84	73
貸倒引当金	18	6
投資その他の資産合計	1,004	1,154
固定資産合計	6,565	6,655
資産合計	18,313	17,383

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,260	4,267
短期借入金	4 2,224	4 1,663
リース債務	50	65
未払法人税等	857	9
前受金	642	1,155
賞与引当金	324	292
役員賞与引当金	30	15
工事損失引当金	6 67	-
完成工事補償引当金	90	51
その他	776	403
流動負債合計	9,325	7,923
固定負債		
長期借入金	4 721	4 695
リース債務	135	136
退職給付引当金	861	1,039
役員退職慰労引当金	126	109
資産除去債務	-	47
再評価に係る繰延税金負債	3 1,284	3 1,284
固定負債合計	3,130	3,313
負債合計	12,455	11,236
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,030	1,030
資本剰余金	103	103
利益剰余金	2,816	3,121
自己株式	5	5
株主資本合計	3,943	4,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	2
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	3 1,895	3 1,895
その他の包括利益累計額合計	1,913	1,897
純資産合計	5,857	6,146
負債純資産合計	18,313	17,383

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	21,420	17,199
売上原価	1, 2 16,834	14,644
売上総利益	4,586	2,554
販売費及び一般管理費		
役員報酬	150	128
給料	574	574
賞与	195	137
賞与引当金繰入額	112	102
役員賞与引当金繰入額	30	15
退職給付費用	84	81
役員退職慰労引当金繰入額	21	25
法定福利費	131	123
福利厚生費	56	42
旅費交通費及び通信費	99	94
減価償却費	78	63
貸倒引当金繰入額	273	100
研究開発費	3 106	3 118
その他の販売費	4 139	4 168
その他	296	243
販売費及び一般管理費合計	2,349	2,017
営業利益	2,237	537
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	12	19
受取賃貸料	18	11
債務勘定整理益	23	-
その他	1	9
営業外収益合計	56	40
営業外費用		
支払利息	33	26
手形売却損	4	4
固定資産除却損	11	12
支払手数料	11	10
その他	8	3
営業外費用合計	70	56
経常利益	2,222	520

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	280
特別利益合計	-	280
特別損失		
投資有価証券評価損	-	0
ゴルフ会員権売却損	-	0
ゴルフ会員権評価損	7	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	51
その他	5	-
特別損失合計	13	54
税金等調整前当期純利益	2,209	747
法人税、住民税及び事業税	1,081	210
法人税等調整額	158	67
法人税等合計	923	278
少数株主損益調整前当期純利益	-	469
当期純利益	1,286	469

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	469
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	15
繰延ヘッジ損益	-	0
その他の包括利益合計	-	2 15
包括利益	-	1 453
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	453

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,030	1,030
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,030	1,030
資本剰余金		
前期末残高	103	103
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	103	103
利益剰余金		
前期末残高	1,633	2,816
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,286	469
当期変動額合計	1,183	304
当期末残高	2,816	3,121
自己株式		
前期末残高	5	5
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	5	5
株主資本合計		
前期末残高	2,760	3,943
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,286	469
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	1,183	304
当期末残高	3,943	4,248

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	35	18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	53	15
当期変動額合計	53	15
当期末残高	18	2
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	5	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	5	0
当期変動額合計	5	0
当期末残高	-	0
土地再評価差額金		
前期末残高	1,895	1,895
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,895	1,895
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	1,854	1,913
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	59	15
当期変動額合計	59	15
当期末残高	1,913	1,897
純資産合計		
前期末残高	4,614	5,857
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,286	469
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	59	15
当期変動額合計	1,242	288
当期末残高	5,857	6,146

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,209	747
減価償却費	246	244
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	51
貸倒引当金の増減額（ は減少）	273	190
賞与引当金の増減額（ は減少）	23	32
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	11	15
工事損失引当金の増減額（ は減少）	48	67
完成工事補償引当金の増減額（ は減少）	6	39
退職給付引当金の増減額（ は減少）	31	177
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	67	16
受取利息及び受取配当金	12	19
支払利息	33	26
為替差損益（ は益）	-	0
投資有価証券評価損益（ は益）	-	0
固定資産除却損	-	10
ゴルフ会員権評価損	7	1
売上債権の増減額（ は増加）	424	646
たな卸資産の増減額（ は増加）	1,426	647
その他の資産の増減額（ は増加）	210	227
仕入債務の増減額（ は減少）	2,256	9
前受金の増減額（ は減少）	1,842	512
その他の負債の増減額（ は減少）	278	438
その他	4	-
小計	637	2,484
利息及び配当金の受取額	12	19
利息の支払額	34	29
法人税等の支払額	551	1,386
営業活動によるキャッシュ・フロー	63	1,087
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	687	84
有形固定資産の除却による支出	-	6
無形固定資産の取得による支出	3	2
投資有価証券の取得による支出	48	39
貸付けによる支出	11	7
貸付金の回収による収入	-	0
その他の収入	13	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	737	130

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	350	500
長期借入れによる収入	1,200	400
長期借入金の返済による支出	514	487
リース債務の返済による支出	-	60
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	102	164
財務活動によるキャッシュ・フロー	232	812
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	0
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	441	145
現金及び現金同等物の期首残高	1,239	797
現金及び現金同等物の期末残高	1 797	1 942

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 2社 三原木村工機(株) 東北木村工機(株)</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 (株)サモンド・サービス フォレコ(株)</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 2社 三原木村工機(株) 東北木村工機(株)</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 (株)サモンド・サービス フォレコ(株)</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 同左</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>持分法適用の非連結子会社及び関連会社はありません。</p> <p>持分法を適用していない非連結子会社(株)サモンド・サービス、フォレコ(株)及び関連会社(煙台万華木村化工機械有限公司、富山BDF(株))は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p>	同左
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。	同左
4 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産 評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。 仕掛品…個別法 原材料…先入先出法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 15～50年 機械装置及び運搬具、 工具、器具及び備品 5～8年 また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。 リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産 同左</p> <p>デリバティブ 時価法によっております。 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>工事損失引当金 受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末の未引渡工事のうち、損失が発生すると見込まれ、かつ、当連結会計年度において当該損失額を合理的に見積もることが可能な工事について、当連結会計年度以降の損失見積額を計上しております。</p> <p>完成工事補償引当金 完成工事について無償で行う補修費用に備えるため、当連結会計年度末の引渡工事のうち、損失が発生すると見込まれ、かつ、当連結会計年度末において当該損失を合理的に見積もることが可能な工事について、過去の実績率に基づく一定の算定基準により引当計上するほか、特定個別工事に対しては、将来の補償見込額を計上しております。</p>	<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>役員賞与引当金 同左</p> <p>工事損失引当金 同左</p> <p>完成工事補償引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>会計基準変更時差異は、15年による均等額を費用処理しております。</p> <p>過去勤務債務のうち厚生年金基金の代行部分の過去分返上に係るものについては、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をその発生した連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>また、連結子会社三原木村工機㈱及び東北木村工機㈱は、中小企業退職金共済制度に加入しております。</p> <p>役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(4) 重要な収益及び費用の計上基準 完成工事高の計上基準 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p>	<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>会計基準変更時差異は、15年による均等額を費用処理しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をその発生した連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>また、連結子会社は、中小企業退職金共済制度に加入しております。</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(4) 重要な収益及び費用の計上基準 完成工事高及び完成工事原価の計上基準 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額 500百万円以上かつ工期 1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当連結会計年度から適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、売上高は 243百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ58百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報につきましては、従来の方法に比較して、化学機械装置関連事業は売上高が 239百万円、営業利益が58百万円それぞれ増加しており、原子力関連事業は売上高が 4百万円、営業利益が 0百万円それぞれ増加しております。</p> <p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 イ．ヘッジ手段...為替予約取引 ヘッジ対象...外貨建予定取引 ロ．ヘッジ手段...金利スワップ取引 ヘッジ対象...変動金利借入金</p>	<p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債務等については、振当処理を行っております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...為替予約取引 ヘッジ対象...外貨建予定取引</p>

項目	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
	<p>ヘッジ方針 外貨建仕入取引に係る為替変動リスクヘッジのため為替予約取引を、また、資金調達に係る金利変動リスクヘッジのため金利スワップ取引を行っており、投機目的、短期的な売買差益を得るための目的で行わない方針であります。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。</p> <p>ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>また、為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約を振り当てているため、その後の為替予約の変動による相関関係は完全に確保されているので、決算日における有効性の評価を省略しております。</p> <p>(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する定期預金からなっております。</p> <p>(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	全面時価評価法によっております。	
6 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する定期預金からなっております。	

【会計方針の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(退職給付に係る会計基準の一部改正(その3)の適用) 当連結会計年度から「退職給付に係る会計基準の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年 7月31日)を適用しております。 数理計算上の差異を翌期から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。 また、これによる退職給付債務の差額は発生しておりません。</p>	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これにより、当連結会計年度の営業利益、経常利益に与える影響はありませんが、税金等調整前当期純利益は47百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は51百万円であります。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(連結損益計算書関係) 1 前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めていた「固定資産除却損」は、重要性が増したため、当連結会計年度では区分掲記することとしております。なお、前連結会計年度の営業外費用の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は15百万円であります。 2 前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めていた「支払手数料」は、重要性が増したため、当連結会計年度では区分掲記することとしております。なお、前連結会計年度の営業外費用の「その他」に含まれる「支払手数料」は13百万円であります。</p>	<p>(連結損益計算書関係) 当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年 3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、3,037百万円です。</p> <p>2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 24百万円</p> <p>3 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額によっております。</p> <p>・再評価を行った年月日 平成12年3月31日</p> <p>・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 1,382百万円</p> <p>4 担保資産及び担保付債務は次のとおりであります。</p> <p>・担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%; text-align: center;">尼崎工場財団</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,204百万円</td> <td style="text-align: right;">589百万円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,126</td> <td style="text-align: right;">128</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td style="text-align: right;">76</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">37</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,444百万円</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">717百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">745百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)</td> <td style="text-align: right;">603</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,348百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 受取手形割引高 497百万円</p> <p>6 損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品と工事損失引当金は相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品のうち工事損失引当金に対応する額は67百万円です。</p>		尼崎工場財団	その他	土地	2,204百万円	589百万円	建物及び構築物	1,126	128	機械装置	76		工具、器具及び備品	37		計	3,444百万円	717百万円	短期借入金	745百万円	長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	603	計	1,348百万円	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、3,077百万円です。</p> <p>2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 24百万円</p> <p>3 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額によっております。</p> <p>・再評価を行った年月日 平成12年3月31日</p> <p>・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 1,446百万円</p> <p>4 担保資産及び担保付債務は次のとおりであります。</p> <p>・担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%; text-align: center;">尼崎工場財団</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,204百万円</td> <td style="text-align: right;">589百万円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,062</td> <td style="text-align: right;">168</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td style="text-align: right;">52</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">30</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,349百万円</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">757百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">短期借入金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">550百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)</td> <td style="text-align: right;">357</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">907百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 受取手形割引高 130百万円</p>		尼崎工場財団	その他	土地	2,204百万円	589百万円	建物及び構築物	1,062	168	機械装置	52		工具、器具及び備品	30		計	3,349百万円	757百万円	短期借入金	550百万円	長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	357	計	907百万円
	尼崎工場財団	その他																																															
土地	2,204百万円	589百万円																																															
建物及び構築物	1,126	128																																															
機械装置	76																																																
工具、器具及び備品	37																																																
計	3,444百万円	717百万円																																															
短期借入金	745百万円																																																
長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	603																																																
計	1,348百万円																																																
	尼崎工場財団	その他																																															
土地	2,204百万円	589百万円																																															
建物及び構築物	1,062	168																																															
機械装置	52																																																
工具、器具及び備品	30																																																
計	3,349百万円	757百万円																																															
短期借入金	550百万円																																																
長期借入金(短期借入金に含めている「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	357																																																
計	907百万円																																																

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)												
<p>7 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末における当座貸越契約及びコミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額</td> <td>4,700百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>2,900百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700百万円	借入実行残高	1,800	差引額	2,900百万円	<p>7 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末における当座貸越契約及びコミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額</td> <td>4,700百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>1,300</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>3,400百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700百万円	借入実行残高	1,300	差引額	3,400百万円
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700百万円												
借入実行残高	1,800												
差引額	2,900百万円												
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700百万円												
借入実行残高	1,300												
差引額	3,400百万円												

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
<p>1 売上原価に含まれる工事損失引当金繰入額 67百万円</p> <p>2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額 0百万円</p> <p>3 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 106百万円 (なお、当期総製造費用に含まれるものではありません。)</p> <p>4 「その他の販売費」は、見積設計費であります。</p> <p>5 特別損失の「その他」は死亡弔慰金であります。</p>	<p>3 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 118百万円 (なお、当期総製造費用に含まれるものではありません。)</p> <p>4 同左</p>

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	1,345百万円
少数株主に係る包括利益	
計	1,345百万円
2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	53百万円
繰延ヘッジ損益	5
計	59百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

区分	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	20,600			20,600
自己株式 普通株式	19	0		19

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月28日 取締役会	普通株式	102	5.00	平成21年 3月31日	平成21年 6月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月28日 取締役会	普通株式	利益剰余金	164	8.00	平成22年 3月31日	平成22年 6月7日

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

区分	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	20,600			20,600
自己株式 普通株式	19	0		19

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月28日 取締役会	普通株式	164	8.00	平成22年 3月31日	平成22年 6月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月27日 取締役会	普通株式	利益剰余金	102	5.00	平成23年 3月31日	平成23年 6月7日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)								
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年 3月31日現在)	1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年 3月31日現在)								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">797百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">797百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	797百万円	現金及び現金同等物	797百万円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">942百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">942百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	942百万円	現金及び現金同等物	942百万円
現金及び預金勘定	797百万円								
現金及び現金同等物	797百万円								
現金及び預金勘定	942百万円								
現金及び現金同等物	942百万円								

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)				当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)			
ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 ・有形固定資産 主としてコンピュータシステムであります。 ・無形固定資産 主としてソフトウェアであります。 (2) リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却 資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				1 ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 ・有形固定資産 同左 ・無形固定資産 同左 (2) リース資産の減価償却の方法 同左 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
工具、器具 及び備品	130	108	22	工具、器具 及び備品	130	122	7
なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。 未経過リース料期末残高相当額 1 年 内 14百万円 1 年 超 7百万円 合 計 22百万円 なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 25百万円 減価償却費相当額 25百万円 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				同左 未経過リース料期末残高相当額 1 年 内 4百万円 1 年 超 2百万円 合 計 7百万円 同左 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 14百万円 減価償却費相当額 14百万円 減価償却費相当額の算定方法 同左			
2 オペレーティング・リース取引(借主側) オペレーティング・リース取引の内解約不能のものに係る未経過リース料 1 年 内 1百万円 1 年 超 4百万円 合 計 5百万円				2 オペレーティング・リース取引(借主側) オペレーティング・リース取引の内解約不能のものに係る未経過リース料 1 年 内 1百万円 1 年 超 4百万円 合 計 5百万円			

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号平成20年3月10日)を適用しております。

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブは、実需の範囲で行うこととしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収遅延債権については、定期的に把握及び対応を行う体制としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業等の株式であります。主に上場株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握し、明細表を作成する等の方法により管理しております。

営業債務である買掛金は、ほぼ全てが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、基本的にリスクの低い短期のものに限定しております。

また、これら営業債務、借入金等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(4) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち33%が特定の大口顧客に対するものであります。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。詳細につきましては、(注2)をご参照ください。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	797	797	
(2) 受取手形及び売掛金	8,598	8,598	0
(3) 投資有価証券 其他有価証券	489	489	
資産計	9,884	9,884	0
(1) 支払手形及び買掛金	4,260	4,260	
(2) 短期借入金	1,951	1,951	
(3) 長期借入金	995	1,002	6
負債計	7,206	7,213	6
デリバティブ取引			

- (注) 1 1年以内に返済予定の長期借入金 273百万円は長期借入金に含めております。
2 デリバティブ取引 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式(連結貸借対照表計上額81百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金については全て1年以内に償還予定であります。

(注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表 をご覧下さい。なお、返済期間が5年超となるものはありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブは、外貨建債務の為替変動リスクを回避すること、また、金融負債に係る金利変動リスクを回避することを目的として実施するものであり、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収遅延債権については、定期的に把握及び対応を行う体制としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業等の株式であります。主に上場株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握し、明細表を作成する等の方法により管理しております。

営業債務である買掛金は、ほぼ全てが3ヶ月以内の支払期日であります。

なお、一部には外貨建のものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約を利用して為替変動リスクをヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、基本的にリスクの低い短期のものに限定しております。

また、これら営業債務、借入金等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引であります。なお、デリバティブは決裁権限規定に従い行うこととしております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(4) 信用リスクの集中

該当事項はありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。詳細につきましては、(注2)をご参照ください。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	942	942	
(2) 受取手形及び売掛金	7,846	7,846	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	500	500	
資産計	9,290	9,290	
(1) 支払手形及び買掛金	4,267	4,267	
(2) 短期借入金	1,300	1,300	
(3) 長期借入金	1,058	1,063	4
負債計	6,626	6,631	4
デリバティブ取引	0	0	0

(注) 1年以内に返済予定の長期借入金 363百万円は長期借入金に含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式(連結貸借対照表計上額81百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金については全て1年以内に償還予定であります。

(注4) 借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表 をご覧下さい。なお、返済期間が5年超となるものはありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1 その他有価証券(平成22年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	344	269	74
	(2) 債券			
	(3) その他	7	6	1
	小計	352	275	76
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	137	182	45
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	137	182	45
合計		489	458	30

当連結会計年度

1 その他有価証券(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	132	56	75
	(2) 債券			
	(3) その他	7	6	0
	小計	139	62	76
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	361	433	72
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	361	433	72
合計		500	496	4

2 減損処理を行った有価証券(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度においてその他有価証券で時価のある株式について0百万円減損処理を行い、投資有価証券評価損を同額計上しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

該当事項はありません。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	68		(注)	
合計			68			

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 ユーロ スイスフラン	買掛金	3 0		4 0
合計			3		4

(注) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

(2) 金利関連

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付型企业年金制度(基金型)及び退職一時金制度を設けております。連結子会社は、中小企業退職金共済制度に加入しております。

また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成23年3月31日) (百万円)
イ 退職給付債務	2,547	2,589
ロ 年金資産	688	671
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	1,858	1,917
ニ 会計基準変更時差異の未処理額	315	252
ホ 未認識過去勤務債務(債務の減額)	194	171
ヘ 未認識数理計算上の差異	876	797
ト 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ)	861	1,039
チ 退職給付引当金(ト)	861	1,039

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) (百万円)
イ 勤務費用	92	91
ロ 利息費用	54	50
ハ 期待運用収益	9	10
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	63	63
ホ 過去勤務債務の費用処理額	23	23
ヘ 数理計算上の差異の費用処理額	140	132
ト 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	317	304

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
(注) 勤務費用から確定給付型企业年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。	(注) 同左

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
ロ 割引率	2.0%	同左
ハ 期待運用収益率	1.5%	同左
ニ 過去勤務債務の額の処理年数	11年	同左
ホ 数理計算上の差異の処理年数	11年	同左
ヘ 会計基準変更時差異の処理年数	15年	同左

(ストックオプション等関係)

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) 及び当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (平成23年 3月31日)																																																																																																				
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 繰延税金資産</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">64 百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">129</td></tr> <tr><td>工事損失引当金</td><td style="text-align: right;">27</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">36</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">110</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td><u>小 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>387 百万円</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">387 百万円</td></tr> <tr><td>繰延ヘッジ損益</td><td></td></tr> <tr><td><u>合 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>387 百万円</u></td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">348 百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">48</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">25</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">33</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td><u>小 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>462 百万円</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">81</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">380 百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td></td></tr> <tr><td><u>合 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>380 百万円</u></td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計 768 百万円</p> <p>(2) 繰延税金負債(固定負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">12 百万円</td></tr> <tr><td><u>合 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>12 百万円</u></td></tr> </table> <p>(3) 差引...繰延税金資産純額 756 百万円</p> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため記載を省略しております。</p>	未払事業税	64 百万円	賞与引当金	129	工事損失引当金	27	完成工事補償引当金	36	貸倒引当金	110	その他	19	<u>小 計</u>	<u>387 百万円</u>	評価性引当額		計	387 百万円	繰延ヘッジ損益		<u>合 計</u>	<u>387 百万円</u>	退職給付引当金	348 百万円	役員退職慰労引当金	48	投資有価証券評価損	25	ゴルフ会員権評価損	33	その他	5	<u>小 計</u>	<u>462 百万円</u>	評価性引当額	81	計	380 百万円	その他有価証券評価差額金		<u>合 計</u>	<u>380 百万円</u>	その他有価証券評価差額金	12 百万円	<u>合 計</u>	<u>12 百万円</u>	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 繰延税金資産</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">0 百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">118</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">42</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td><u>合 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>193 百万円</u></td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">419 百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">44</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">6</td></tr> <tr><td><u>小 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>539 百万円</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">32</td></tr> <tr><td><u>合 計</u></td><td style="text-align: right;"><u>507 百万円</u></td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計 701 百万円</p> <p>(2) 繰延税金負債</p> <p>流動負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延ヘッジ損益</td><td style="text-align: right;">0 百万円</td></tr> </table> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">1 百万円</td></tr> <tr><td><u>繰延税金負債合計</u></td><td style="text-align: right;"><u>1 百万円</u></td></tr> </table> <p>(3) 差引...繰延税金資産純額 699 百万円</p> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">4.2%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.7</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">2.5</td></tr> <tr><td>試験研究費控除</td><td style="text-align: right;">1.3</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">6.4</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.5</td></tr> <tr><td><u>税効果会計適用後の法人税等の負担率</u></td><td style="text-align: right;"><u>37.2%</u></td></tr> </table>	未払事業税	0 百万円	賞与引当金	118	完成工事補償引当金	20	貸倒引当金	42	その他	11	<u>合 計</u>	<u>193 百万円</u>	退職給付引当金	419 百万円	役員退職慰労引当金	44	資産除去債務	19	投資有価証券評価損	23	ゴルフ会員権評価損	26	その他	6	<u>小 計</u>	<u>539 百万円</u>	評価性引当額	32	<u>合 計</u>	<u>507 百万円</u>	繰延ヘッジ損益	0 百万円	その他有価証券評価差額金	1 百万円	<u>繰延税金負債合計</u>	<u>1 百万円</u>	法定実効税率	40.4%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	4.2%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7	住民税均等割	2.5	試験研究費控除	1.3	評価性引当額	6.4	その他	1.5	<u>税効果会計適用後の法人税等の負担率</u>	<u>37.2%</u>
未払事業税	64 百万円																																																																																																				
賞与引当金	129																																																																																																				
工事損失引当金	27																																																																																																				
完成工事補償引当金	36																																																																																																				
貸倒引当金	110																																																																																																				
その他	19																																																																																																				
<u>小 計</u>	<u>387 百万円</u>																																																																																																				
評価性引当額																																																																																																					
計	387 百万円																																																																																																				
繰延ヘッジ損益																																																																																																					
<u>合 計</u>	<u>387 百万円</u>																																																																																																				
退職給付引当金	348 百万円																																																																																																				
役員退職慰労引当金	48																																																																																																				
投資有価証券評価損	25																																																																																																				
ゴルフ会員権評価損	33																																																																																																				
その他	5																																																																																																				
<u>小 計</u>	<u>462 百万円</u>																																																																																																				
評価性引当額	81																																																																																																				
計	380 百万円																																																																																																				
その他有価証券評価差額金																																																																																																					
<u>合 計</u>	<u>380 百万円</u>																																																																																																				
その他有価証券評価差額金	12 百万円																																																																																																				
<u>合 計</u>	<u>12 百万円</u>																																																																																																				
未払事業税	0 百万円																																																																																																				
賞与引当金	118																																																																																																				
完成工事補償引当金	20																																																																																																				
貸倒引当金	42																																																																																																				
その他	11																																																																																																				
<u>合 計</u>	<u>193 百万円</u>																																																																																																				
退職給付引当金	419 百万円																																																																																																				
役員退職慰労引当金	44																																																																																																				
資産除去債務	19																																																																																																				
投資有価証券評価損	23																																																																																																				
ゴルフ会員権評価損	26																																																																																																				
その他	6																																																																																																				
<u>小 計</u>	<u>539 百万円</u>																																																																																																				
評価性引当額	32																																																																																																				
<u>合 計</u>	<u>507 百万円</u>																																																																																																				
繰延ヘッジ損益	0 百万円																																																																																																				
その他有価証券評価差額金	1 百万円																																																																																																				
<u>繰延税金負債合計</u>	<u>1 百万円</u>																																																																																																				
法定実効税率	40.4%																																																																																																				
(調整)																																																																																																					
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.2%																																																																																																				
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7																																																																																																				
住民税均等割	2.5																																																																																																				
試験研究費控除	1.3																																																																																																				
評価性引当額	6.4																																																																																																				
その他	1.5																																																																																																				
<u>税効果会計適用後の法人税等の負担率</u>	<u>37.2%</u>																																																																																																				

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) 及び当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) 及び当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	化学機械装置関連事業(百万円)	原子力機器関連事業(百万円)	計(百万円)	消去又は全社(百万円)	連結(百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	17,973	3,447	21,420		21,420
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	17,973	3,447	21,420		21,420
営業費用	15,750	3,432	19,183		19,183
営業利益	2,222	14	2,237		2,237
資産、減価償却費及び資本的支出					
資産	7,904	3,649	11,553	6,759	18,313
減価償却費	74	42	116	129	246
資本的支出	246	196	443	142	585

(注) 1 事業区分は製品種類別によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化学機械装置関連事業

各種蒸発装置・各種晶析装置・洗浄装置・攪拌機・圧力容器タンク等の製作・据付、各種ステンレス・鉄・樹脂の配管工事等

(2) 原子力機器関連事業

核燃料輸送容器及び格納装置、燃料再処理関連機器、放射線遮蔽設備、放射性廃棄物処理装置等

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、前連結会計年度6,475百万円であり、その主なものは、親会社での余資運用資金(現金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める日本の割合が、90%を越えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「エンジニアリング事業」、「化工機事業」及び「エネルギー・環境事業」の3つを報告セグメントとしております。

「エンジニアリング事業」は、各種蒸発装置、各種晶析装置、洗浄装置、攪拌機、圧力容器タンク、各種ステンレス・鉄・樹脂の配管工事等の設計、製作、加工並びに販売を行っております。

「化工機事業」は、各種プラント設備の設計、機器製作、既設撤去、据付、配管、塗装、保温、試運転調整及びメンテナンス工事等の管理、請負施工を行っております。

「エネルギー・環境事業」は、核燃料輸送容器及び格納装置、核燃料濃縮関連機器、放射性廃棄物処理装置、放射線遮蔽設備及び各種実験設備等の設計、製作、加工並びに販売と、これら各種製品の設置並びに付帯工事を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) (単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	エンジニアリング事業	化工機事業	エネルギー・環境事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	12,488	5,484	3,447	21,420		21,420		21,420
セグメント間の内部売上高又は振替高								
計	12,488	5,484	3,447	21,420		21,420		21,420
セグメント利益又はセグメント損失()	2,349	126	14	2,237		2,237		2,237
セグメント資産	4,759	3,991	3,650	12,401		12,401	5,911	18,313
その他の項目								
減価償却費	106	73	66	246		246		246
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	176	70	196	443		443	142	585

(注) 1 調整額は以下の通りであります。

- (1) セグメント資産の調整額は、親会社の手許資金(現金及び預金等)、長期投資(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等の全社資産であります。
- (2) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門に係る資産等の全社資産についての設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
- 3 セグメント負債については、意思決定に使用していないため、記載しておりません。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (単位: 百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	エンジニアリング事業	化工機事業	エネルギー・環境事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,842	5,511	3,844	17,199		17,199		17,199
セグメント間の内部売上高又は振替高	24	951	10	986		986	986	
計	7,867	6,462	3,855	18,186		18,186	986	17,199
セグメント利益又はセグメント損失()	560	93	116	537		537		537
セグメント資産	4,642	3,537	2,947	11,126		11,126	6,256	17,383
その他の項目								
減価償却費	101	74	68	244		244		244
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	30	85	11	126		126	67	193

(注) 1 調整額は以下の通りであります。

- (1) 売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、親会社の手許資金(現金及び預金等)、長期投資(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等の全社資産であります。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門に係る資産等の全社資産についての設備投資額であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
- 3 セグメント負債については、意思決定に使用していないため、記載しておりません。

(追加情報)

当連結会計年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ニプロ株式会社	2,945	エンジニアリング事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)及び当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	284.63円	1株当たり純資産額	298.65円
1株当たり当期純利益金額	62.50円	1株当たり当期純利益金額	22.80円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	5,857	6,146
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)		
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	5,857	6,146
1株当たり純資産額の算定に 用いられた期末の普通株式の数 (千株)	20,580	20,580

2 1株当たり当期純利益金額

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益 (百万円)	1,286	469
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,286	469
期中平均株式数 (千株)	20,580	20,580

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) 及び当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,800	1,300	0.52	
1年以内に返済予定の長期借入金	424	363	1.19	
1年以内に返済予定のリース債務	50	65		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	721	695	1.19	平成24年6月30日～ 平成26年9月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	135	136		平成24年4月30日～ 平成27年9月30日
その他有利子負債				
合計	3,131	2,561		

(注) 1 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、リース債務について平均利率の記載を行っておりません。

3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	320	290	85	
リース債務	65	49	16	5

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度末及び直前連結会計年度末における資産除去債務の金額が当該各連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における各四半期連結会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	第2四半期 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	第3四半期 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	第4四半期 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高(百万円)	2,701	4,380	4,107	6,009
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額() (百万円)	1	445	30	272
四半期純利益金額(百万円)	6	250	15	209
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	0.32	12.16	0.76	10.20

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	767	897
受取手形	331	2,581
売掛金	8,260	5,364
仕掛品	3 1,433	799
原材料及び貯蔵品	20	20
前渡金	599	397
前払費用	99	94
未収還付法人税等	-	327
繰延税金資産	385	190
その他	32	37
貸倒引当金	284	105
流動資産合計	11,647	10,605

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,697	2,763
減価償却累計額	1,378	1,440
建物(純額)	<u>2</u> 1,319	<u>2</u> 1,322
構築物	268	270
減価償却累計額	181	196
構築物(純額)	<u>2</u> 86	<u>2</u> 73
機械及び装置	1,106	1,014
減価償却累計額	1,014	949
機械及び装置(純額)	<u>2</u> 92	<u>2</u> 65
車両運搬具	18	18
減価償却累計額	17	16
車両運搬具(純額)	0	1
工具、器具及び備品	408	405
減価償却累計額	348	358
工具、器具及び備品(純額)	<u>2</u> 59	<u>2</u> 47
土地	<u>1, 2</u> 3,621	<u>1, 2</u> 3,621
リース資産	58	106
減価償却累計額	18	36
リース資産(純額)	40	69
有形固定資産合計	<u>5,219</u>	<u>5,201</u>
無形固定資産		
ソフトウェア	90	69
リース資産	135	121
電話加入権	13	13
その他	1	-
無形固定資産合計	<u>241</u>	<u>204</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	544	556
関係会社株式	44	44
関係会社長期貸付金	-	10
破産更生債権等	15	3
長期前払費用	3	3
繰延税金資産	360	494
ゴルフ会員権	38	27
その他	40	64
貸倒引当金	39	17
投資その他の資産合計	<u>1,008</u>	<u>1,187</u>
固定資産合計	<u>6,469</u>	<u>6,593</u>
資産合計	<u>18,117</u>	<u>17,199</u>

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	4 2,995	4 2,992
買掛金	4 1,403	4 1,439
短期借入金	2 1,800	2 1,300
1年内返済予定の長期借入金	2 424	2 363
リース債務	50	65
未払金	243	121
未払費用	4 213	4 174
未払法人税等	868	-
未払消費税等	200	-
前受金	642	1,155
預り金	19	19
賞与引当金	317	286
役員賞与引当金	30	15
工事損失引当金	3 64	-
完成工事補償引当金	90	51
設備関係支払手形	53	51
その他	19	23
流動負債合計	9,438	8,060
固定負債		
長期借入金	2 721	2 695
リース債務	135	136
退職給付引当金	861	1,039
役員退職慰労引当金	100	81
資産除去債務	-	47
再評価に係る繰延税金負債	1 1,284	1 1,284
固定負債合計	3,104	3,284
負債合計	12,542	11,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,030	1,030
資本剰余金		
資本準備金	103	103
利益剰余金		
利益準備金	113	130
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,420	2,699
利益剰余金合計	2,534	2,829
自己株式	5	5
株主資本合計	3,661	3,956
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17	2
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	1 1,895	1 1,895
評価・換算差額等合計	1,913	1,897
純資産合計	5,575	5,854
負債純資産合計	18,117	17,199

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	4 21,383	4 17,141
売上原価		
製品期首たな卸高	-	-
当期製品製造原価	1, 2, 4 16,855	4 14,665
合計	16,855	14,665
製品期末たな卸高	-	-
売上原価合計	16,855	14,665
売上総利益	4,527	2,475
販売費及び一般管理費		
役員報酬	138	117
給料	548	554
賞与	195	134
賞与引当金繰入額	108	102
役員賞与引当金繰入額	30	15
退職給付費用	83	80
役員退職慰労引当金繰入額	27	22
法定福利費	125	118
福利厚生費	56	42
交際費	53	48
旅費交通費及び通信費	99	94
賃借料	10	8
地代家賃	19	17
保険料	22	13
租税公課	59	43
減価償却費	78	63
貸倒引当金繰入額	285	100
研究開発費	3 106	3 118
その他の販売費	5 139	5 168
その他	126	107
販売費及び一般管理費合計	2,315	1,970
営業利益	2,211	504
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	17	21
受取賃貸料	4 18	4 18
債務勘定整理益	23	-
その他	7	8
営業外収益合計	67	48
営業外費用		
支払利息	33	26
手形売却損	4	4
固定資産除却損	11	12
支払手数料	11	10
その他	4	3
営業外費用合計	65	56
経常利益	2,212	496

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	291
特別利益合計	-	291
特別損失		
投資有価証券評価損	-	0
ゴルフ会員権売却損	-	0
ゴルフ会員権評価損	7	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	51
その他	6	5
特別損失合計	13	54
税引前当期純利益	2,199	732
法人税、住民税及び事業税	1,081	201
法人税等調整額	159	71
法人税等合計	921	273
当期純利益	1,278	459

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		4,523	28.7	4,660	32.9
労務費		2,375	15.1	2,167	15.3
外注費		6,756	42.9	5,637	39.7
経費					
減価償却費		160		175	
その他		1,939		1,543	
計		2,100	13.3	1,718	12.1
当期総製造費用		15,755	100.0	14,185	100.0
期首仕掛品たな卸高		2,674		1,433	
合計		18,430		15,619	
他勘定振替高	1	140		153	
期末仕掛品たな卸高		1,433		799	
当期製品製造原価		16,855		14,665	

(注) 1 他勘定振替高は、固定資産、販売費及び一般管理費への振替額であります。
2 原価計算の方法 個別原価計算によっております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	1,030	1,030
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,030	1,030
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	103	103
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	103	103
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	103	113
当期変動額		
剰余金の配当	10	16
当期変動額合計	10	16
当期末残高	113	130
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	1,255	2,420
当期変動額		
剰余金の配当	113	181
当期純利益	1,278	459
当期変動額合計	1,164	278
当期末残高	2,420	2,699
利益剰余金合計		
前期末残高	1,359	2,534
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,278	459
当期変動額合計	1,175	295
当期末残高	2,534	2,829
自己株式		
前期末残高	5	5
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	5	5

(単位：百万円)

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
株主資本合計		
前期末残高	2,486	3,661
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,278	459
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	1,175	294
当期末残高	3,661	3,956
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	35	17
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	53	15
当期変動額合計	53	15
当期末残高	17	2
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	5	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	5	0
当期変動額合計	5	0
当期末残高	-	0
土地再評価差額金		
前期末残高	1,895	1,895
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,895	1,895
評価・換算差額等合計		
前期末残高	1,854	1,913
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	59	15
当期変動額合計	59	15
当期末残高	1,913	1,897
純資産合計		
前期末残高	4,340	5,575
当期変動額		
剰余金の配当	102	164
当期純利益	1,278	459
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	59	15
当期変動額合計	1,234	279
当期末残高	5,575	5,854

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 事業年度末日の市場価格等に基づく 時価法(評価差額は全部純資産直入 法により処理し、売却原価は移動平 均法により算定しております。)を採 用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用して おります。</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>
2 デリバティブ取引等 の評価基準及び評価 方法		<p>デリバティブ 時価法によっております。</p>
3 たな卸資産の評価基 準及び評価方法	<p>通常の販売目的で保有するたな卸資産 評価基準は原価法(収益性の低下によ る簿価切下げの方法)によっておりま す。 仕掛品...個別法 原材料...先入先出法</p>	<p>通常の販売目的で保有するたな卸資産 同左</p>
4 固定資産の減価償却 の方法	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年 4月 1日以降 に取得した建物(附属設備を除く)につ いては定額法)を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであ ります。 建物並びに構築物 15～50年 機械及び装置並びに 工具、器具及び備品 5～8年 また、平成19年 3月31日以前に取得し たものについては、償却可能限度額ま で償却が終了した翌年から5年間で均 等償却する方法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法(なお、自社利用のソフトウェア については、社内における利用可能期 間(5年)に基づく定額法)を採用して おります。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取 引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額 をゼロとする定額法によっておりま す。</p>	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	
<p>5 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支給に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 工事損失引当金 受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末の未引渡工事のうち、損失が発生すると見込まれ、かつ、当事業年度末時点で当該損失を合理的に見積もることが可能な工事について、当事業年度以降の損失見込額を計上しております。</p> <p>(5) 完成工事補償引当金 完成工事について無償で行う補修費用に備えるため、当事業年度末の引渡工事のうち、損失が発生すると見込まれ、かつ、当事業年度末において当該損失を合理的に見積もることが可能な工事について、過去の実績率に基づく一定の算定基準により引当計上するほか、特定個別工事に対しては、将来の補償見込額を計上しております。</p> <p>(6) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 会計基準変更時差異は、15年による按分額を費用処理しております。 過去勤務債務のうち厚生年金基金の代行部分の過去分返上に係るものについては、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により按分した額をその発生した事業年度から費用処理することとしております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) 工事損失引当金 同左</p> <p>(5) 完成工事補償引当金 同左</p> <p>(6) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 会計基準変更時差異は、15年による按分額を費用処理しております。 過去勤務債務は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により按分した額をその発生した事業年度から費用処理することとしております。</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(7) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(7) 役員退職慰労引当金 同左</p>
6 収益及び費用の計上基準	<p>完成工事高の計上基準 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>(会計方針の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額 500百万円以上かつ工期 1 年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当事業年度から適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、売上高は 243百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ58百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報につきましては、従来の方法に比較して、化学機械装置関連事業は売上高が 239百万円、営業利益が58百万円それぞれ増加しており、原子力関連事業は売上高が 4百万円、営業利益が 0百万円それぞれ増加しております。</p>	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
7 ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。 ヘッジ手段...為替予約 ヘッジ対象...外貨建予定取引 ヘッジ手段...金利スワップ ヘッジ対象...変動金利借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 外貨建仕入取引に係る為替変動リスクヘッジのため為替予約取引を、また、資金調達に係る金利変動リスクヘッジのため金利スワップ取引を行っており、投機目的、短期的な売買差益を得るための目的で行わない方針であります。</p> <p>(4) ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。 ヘッジ手段...為替予約 ヘッジ対象...外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。 また、為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約を振り当てているため、その後の為替予約の変動による相関関係は完全に確保されているので、決算日における有効性の評価を省略しております。</p>
8 その他財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

【会計方針の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>(退職給付に係る会計基準の一部改正(その3)の適用) 当事業年度から「退職給付に係る会計基準の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年 7月31日)を適用しております。 数理計算上の差異を翌期から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。 また、これによる退職給付債務の差額は発生していません。</p>	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これにより、当事業年度の営業利益、経常利益に与える影響はありませんが、税引前当期純利益は47百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は51百万円であります。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(貸借対照表)</p> <p>1 前事業年度において、流動負債の「その他」に含めていた「未払消費税等」は、重要性が増したため、当事業年度では区分掲記することとしております。なお、前事業年度の流動負債の「その他」に含まれる「未払消費税等」はありません(前事業年度においては、流動資産の「その他」に、「未収還付消費税等」が40百万円含まれております。)</p> <p>2 前事業年度において独立掲記しておりました「未収入金」(当事業年度 0百万円)は、金額が僅少となったため、当事業年度においては流動資産の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>3 前事業年度において独立掲記しておりました「役員に対する保険積立金」(当事業年度 9百万円)は、金額が僅少となったため、当事業年度においては投資その他の資産の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>(損益計算書)</p> <p>1 前事業年度において、独立掲記しておりました「受取保険金」(当事業年度 0百万円)は、金額が僅少となったため、当事業年度においては営業外収益の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>2 前事業年度において、営業外費用の「その他」に含めていた「固定資産除却損」は、重要性が増したため、当事業年度では区分掲記することとしております。なお、前事業年度の営業外費用の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は15百万円であります。</p> <p>3 前事業年度において、営業外費用の「その他」に含めていた「支払手数料」は、重要性が増したため、当事業年度では区分掲記することとしております。なお、前事業年度の営業外費用の「その他」に含まれる「支払手数料」は13百万円であります。</p>	

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																		
<p>1 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額によっております。</p> <p>・再評価を行った年月日 平成12年3月31日</p> <p>・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 1,382百万円</p> <p>2 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">尼崎工場財団</th> <th style="text-align: center;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,204 百万円</td> <td style="text-align: right;">589 百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">1,057</td> <td style="text-align: right;">122</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">68</td> <td style="text-align: right;">5</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">76</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び品</td> <td style="text-align: right;">37</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,444 百万円</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">717 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">745 百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)</td> <td style="text-align: right;">603</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,348 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品と工事損失引当金は相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る仕掛品のうち工事損失引当金に対応する額は64百万円です。</p> <p>4 関係会社に対する債権及び債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">166 百万円</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">221 百万円</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td style="text-align: right;">11 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 受取手形割引高 497百万円</p>		尼崎工場財団	その他	土地	2,204 百万円	589 百万円	建物	1,057	122	構築物	68	5	機械及び装置	76		工具、器具及び品	37		計	3,444 百万円	717 百万円	短期借入金	745 百万円	長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	603	計	1,348 百万円	支払手形	166 百万円	買掛金	221 百万円	未払費用	11 百万円	<p>1 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。</p> <p>・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額によっております。</p> <p>・再評価を行った年月日 平成12年3月31日</p> <p>・再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 1,446百万円</p> <p>2 担保資産及び担保付債務 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">尼崎工場財団</th> <th style="text-align: center;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">2,204 百万円</td> <td style="text-align: right;">589 百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">1,008</td> <td style="text-align: right;">160</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">54</td> <td style="text-align: right;">7</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">52</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">30</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,349 百万円</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">757 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">550 百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)</td> <td style="text-align: right;">357</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">907 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 関係会社に対する債権及び債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">174 百万円</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">242 百万円</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td style="text-align: right;">3 百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 受取手形割引高 130百万円</p>		尼崎工場財団	その他	土地	2,204 百万円	589 百万円	建物	1,008	160	構築物	54	7	機械及び装置	52		工具、器具及び備品	30		計	3,349 百万円	757 百万円	短期借入金	550 百万円	長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	357	計	907 百万円	支払手形	174 百万円	買掛金	242 百万円	未払費用	3 百万円
	尼崎工場財団	その他																																																																	
土地	2,204 百万円	589 百万円																																																																	
建物	1,057	122																																																																	
構築物	68	5																																																																	
機械及び装置	76																																																																		
工具、器具及び品	37																																																																		
計	3,444 百万円	717 百万円																																																																	
短期借入金	745 百万円																																																																		
長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	603																																																																		
計	1,348 百万円																																																																		
支払手形	166 百万円																																																																		
買掛金	221 百万円																																																																		
未払費用	11 百万円																																																																		
	尼崎工場財団	その他																																																																	
土地	2,204 百万円	589 百万円																																																																	
建物	1,008	160																																																																	
構築物	54	7																																																																	
機械及び装置	52																																																																		
工具、器具及び備品	30																																																																		
計	3,349 百万円	757 百万円																																																																	
短期借入金	550 百万円																																																																		
長期借入金(「1年内返済予定の長期借入金」を含む)	357																																																																		
計	907 百万円																																																																		
支払手形	174 百万円																																																																		
買掛金	242 百万円																																																																		
未払費用	3 百万円																																																																		

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)												
<p>6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末における当座貸越契約及びコミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額</td> <td>4,700 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>2,900 百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700 百万円	借入実行残高	1,800	差引額	2,900 百万円	<p>6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末における当座貸越契約及びコミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額</td> <td>4,700 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td>1,300</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>3,400 百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700 百万円	借入実行残高	1,300	差引額	3,400 百万円
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700 百万円												
借入実行残高	1,800												
差引額	2,900 百万円												
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	4,700 百万円												
借入実行残高	1,300												
差引額	3,400 百万円												

(損益計算書関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
<p>1 売上原価に含まれる工事損失引当金繰入額 64百万円</p> <p>2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額 0百万円</p> <p>3 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 106百万円 (なお、当期総製造費用に含まれるものではありません。)</p> <p>4 関係会社に対する事項 売上高 19百万円 仕入高 1,132百万円 受取地代家賃 6百万円</p> <p>5 「その他の販売費」は、見積設計費であります。</p> <p>6 特別損失の「その他」は死亡弔慰金であります。</p>	<p>3 研究開発費の総額 一般管理費に含まれる研究開発費 118百万円 (なお、当期総製造費用に含まれるものではありません。)</p> <p>4 関係会社に対する事項 売上高 46百万円 仕入高 998百万円 受取地代家賃 6百万円</p> <p>5 同左</p>

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

区分	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度 増加株式数(千株)	当事業年度 減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
自己株式 普通株式	19	0		19

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

区分	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度 増加株式数(千株)	当事業年度 減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
自己株式 普通株式	19	0		19

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)				当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)			
ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 ・有形固定資産 主としてコンピュータシステムであります。 ・無形固定資産 主としてソフトウェアであります。 (2) リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4 固定資産の減価償却の方法」に 記載の通りであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のう ち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリー ス取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準 じた会計処理によっており、その内容は次のとおりで あります。 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当 額及び期末残高相当額				1 ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 ・有形固定資産 同左 ・無形固定資産 同左 (2) リース資産の減価償却の方法 同左 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当 額及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
工具、器具 及び備品	130	108	22	工具、器具 及び備品	130	122	7
なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が 有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いた め、支払利子込み法により算定しております。				同左			

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																										
<p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 年 内</td> <td style="text-align: right;">14百万円</td> </tr> <tr> <td>1 年 超</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">22百万円</td> </tr> </table> <p>なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いとため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>	1 年 内	14百万円	1 年 超	7百万円	合 計	22百万円	支払リース料	25百万円	減価償却費相当額	25百万円	<p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 年 内</td> <td style="text-align: right;">4百万円</td> </tr> <tr> <td>1 年 超</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7百万円</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">14百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">14百万円</td> </tr> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>2 オペレーティング・リース取引(借主側) オペレーティング・リース取引の内解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 年 内</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td>1 年 超</td> <td style="text-align: right;">4百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5百万円</td> </tr> </table>	1 年 内	4百万円	1 年 超	2百万円	合 計	7百万円	支払リース料	14百万円	減価償却費相当額	14百万円	1 年 内	1百万円	1 年 超	4百万円	合 計	5百万円
1 年 内	14百万円																										
1 年 超	7百万円																										
合 計	22百万円																										
支払リース料	25百万円																										
減価償却費相当額	25百万円																										
1 年 内	4百万円																										
1 年 超	2百万円																										
合 計	7百万円																										
支払リース料	14百万円																										
減価償却費相当額	14百万円																										
1 年 内	1百万円																										
1 年 超	4百万円																										
合 計	5百万円																										

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年 3月31日)

(追加情報)

当事業年度より「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年 3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年 3月10日)を適用しております。

子会社株式及び関連会社株式(時価を把握するのが極めて困難と認められるもの)

貸借対照表計上額

- | | |
|------------|-------|
| (1) 子会社株式 | 33百万円 |
| (2) 関連会社株式 | 11百万円 |
| 計 | 44百万円 |

(注) 上記については市場価格がありません。従って、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(平成23年 3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(時価を把握するのが極めて困難と認められるもの)

貸借対照表計上額

- | | |
|------------|-------|
| (1) 子会社株式 | 33百万円 |
| (2) 関連会社株式 | 11百万円 |
| 計 | 44百万円 |

(注) 上記については市場価格がありません。従って、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 繰延税金資産</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">64 百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">128</td></tr> <tr><td>工事損失引当金</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">36</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">110</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">385 百万円</td></tr> </table> <p>繰延ヘッジ損益</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">385 百万円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">348 百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">40</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">25</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">33</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">453 百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">81</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">372 百万円</td></tr> </table> <p>その他有価証券評価差額金</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">372 百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">758 百万円</td></tr> </table> <p>(2) 繰延税金負債(固定負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">12 百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">12 百万円</td></tr> </table> <p>(3) 差引...繰延税金資産純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">(3) 差引...繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">746 百万円</td></tr> </table>	未払事業税	64 百万円	賞与引当金	128	工事損失引当金	26	完成工事補償引当金	36	貸倒引当金	110	その他	19	計	385 百万円	合計	385 百万円	退職給付引当金	348 百万円	役員退職慰労引当金	40	投資有価証券評価損	25	ゴルフ会員権評価損	33	その他	5	小計	453 百万円	評価性引当額	81	計	372 百万円	合計	372 百万円	繰延税金資産合計	758 百万円	その他有価証券評価差額金	12 百万円	合計	12 百万円	(3) 差引...繰延税金資産純額	746 百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 繰延税金資産</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">115 百万円</td></tr> <tr><td>完成工事補償引当金</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">42</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">190 百万円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">419 百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">32</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">28</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">4</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">531 百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">34</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">496 百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">686 百万円</td></tr> </table> <p>(2) 繰延税金負債</p> <p>流動負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延ヘッジ損益</td><td style="text-align: right;">0 百万円</td></tr> </table> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">1 百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1 百万円</td></tr> </table> <p>(3) 差引...繰延税金資産純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">(3) 差引...繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">685 百万円</td></tr> </table>	賞与引当金	115 百万円	完成工事補償引当金	20	貸倒引当金	42	その他	11	合計	190 百万円	退職給付引当金	419 百万円	役員退職慰労引当金	32	資産除去債務	19	投資有価証券評価損	28	ゴルフ会員権評価損	26	その他	4	小計	531 百万円	評価性引当額	34	合計	496 百万円	繰延税金資産合計	686 百万円	繰延ヘッジ損益	0 百万円	その他有価証券評価差額金	1 百万円	繰延税金負債合計	1 百万円	(3) 差引...繰延税金資産純額	685 百万円
未払事業税	64 百万円																																																																																
賞与引当金	128																																																																																
工事損失引当金	26																																																																																
完成工事補償引当金	36																																																																																
貸倒引当金	110																																																																																
その他	19																																																																																
計	385 百万円																																																																																
合計	385 百万円																																																																																
退職給付引当金	348 百万円																																																																																
役員退職慰労引当金	40																																																																																
投資有価証券評価損	25																																																																																
ゴルフ会員権評価損	33																																																																																
その他	5																																																																																
小計	453 百万円																																																																																
評価性引当額	81																																																																																
計	372 百万円																																																																																
合計	372 百万円																																																																																
繰延税金資産合計	758 百万円																																																																																
その他有価証券評価差額金	12 百万円																																																																																
合計	12 百万円																																																																																
(3) 差引...繰延税金資産純額	746 百万円																																																																																
賞与引当金	115 百万円																																																																																
完成工事補償引当金	20																																																																																
貸倒引当金	42																																																																																
その他	11																																																																																
合計	190 百万円																																																																																
退職給付引当金	419 百万円																																																																																
役員退職慰労引当金	32																																																																																
資産除去債務	19																																																																																
投資有価証券評価損	28																																																																																
ゴルフ会員権評価損	26																																																																																
その他	4																																																																																
小計	531 百万円																																																																																
評価性引当額	34																																																																																
合計	496 百万円																																																																																
繰延税金資産合計	686 百万円																																																																																
繰延ヘッジ損益	0 百万円																																																																																
その他有価証券評価差額金	1 百万円																																																																																
繰延税金負債合計	1 百万円																																																																																
(3) 差引...繰延税金資産純額	685 百万円																																																																																
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため記載を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.9%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.8</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">2.5</td></tr> <tr><td>試験研究費控除</td><td style="text-align: right;">1.3</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">7.0</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.4</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">37.3%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	3.9%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8	住民税均等割	2.5	試験研究費控除	1.3	評価性引当額	7.0	その他	0.4	税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.3%																																																														
法定実効税率	40.4%																																																																																
(調整)																																																																																	
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.9%																																																																																
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8																																																																																
住民税均等割	2.5																																																																																
試験研究費控除	1.3																																																																																
評価性引当額	7.0																																																																																
その他	0.4																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.3%																																																																																

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)及び当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	270.89円	1株当たり純資産額	284.46円
1株当たり当期純利益金額	62.10円	1株当たり当期純利益金額	22.33円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	5,575	5,854
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)		
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	5,575	5,854
1株当たり純資産額の算定に 用いられた期末の普通株式の数 (千株)	20,580	20,580

2 1株当たり当期純利益金額

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益 (百万円)	1,278	459
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,278	459
期中平均株式数 (千株)	20,580	20,580

(重要な後発事象)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)及び当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
(株)奥村組	419,000	146
住友信託銀行(株)	263,500	115
(株)中北製作所	107,000	55
阪本薬品工業(株)	30,000	48
(株)クリヤマ	85,200	42
(株)名村造船所	87,000	36
(株)イチネンホールディングス	60,000	24
帝人(株)	50,600	18
東レ(株)	24,127	14
富士フィルム ホールディングス(株)	3,368	8
その他 20銘柄	210,131	38
計	1,339,927	549

【その他】

種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
(投資信託受益証券)		
野村証券投資信託委託		
ノムラ日本株戦略ファンド	9,694,621	4
新光証券投資信託委託		
ブランドエクイティ	484	2
計	9,695,105	7

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	2,697	89	23	2,763	1,440	83	1,322
構築物	268	5	2	270	196	17	73
機械及び装置	1,106	9	101	1,014	949	29	65
車両運搬具	18	1	1	18	16	0	1
工具、器具 及び備品	408	12	15	405	358	24	47
土地	3,621	-	-	3,621	-	-	3,621
建設仮勘定	-	99	99	-	-	-	-
リース資産(有形)	58	47	-	106	36	17	69
有形固定資産計	8,179	264	243	8,200	2,998	172	5,201
無形固定資産							
ソフトウェア	120	2	0	122	53	24	69
リース資産(無形)	180	25	-	206	84	40	121
電話加入権	13	-	-	13	-	-	13
その他	8	-	8	-	-	1	-
無形固定資産計	322	28	8	342	137	65	204
長期前払費用	6	3	6	3			3

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

 建物 愛媛工場・作業所増改築 71百万円
 有形リース資産 サーバースystem一式 36百万円

2 長期前払費用は、保険料等の期間配分にかかるものであり、減価償却と性格が異なるため、償却累計額には含めておりません。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	323	100	10	291	122
賞与引当金	317	286	317	-	286
役員賞与引当金	30	15	30	-	15
工事損失引当金	64	-	64	-	-
完成工事補償引当金	90	16	34	21	51
役員退職慰労引当金	100	22	41	-	81

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率洗替額及び回収による取崩であります。

2 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」は、見積りに基づく洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	10
預金の種類	
当座預金	672
普通預金	33
定期預金	180
その他預金	0
計	886
合計	897

受取手形・売掛金

イ．受取手形・売掛金相手先別内訳

相手先		金額(百万円)	相手先		金額(百万円)
受取手形	ニプロ(株)	1,419	売掛金	富士電機システムズ(株)	730
	(株)大阪チタニウムテクノロジーズ	289		(株)東芝	483
	上野製薬(株)	249		日本食品化工(株)	392
	エム・セテック(株)	211		(株)大阪チタニウムテクノロジーズ	373
	千代田化工建設(株)	137		住友化学(株)	271
	その他	273		その他	3,113
	合計	2,581		合計	5,364

ロ．受取手形の期日別内訳

期日	平成23年4月	5月	6月	7月	8月以降	計
受取手形(百万円)	491	617	738	458	275	2,581

ハ．売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円) A	当期発生高 (百万円) B	当期回収高 (百万円) C	次期繰越高 (百万円) D	回収率(%) $\frac{C}{A+B} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{A+D}{2} \div \frac{B}{365}$
8,260	17,989	20,884	5,364	79.6	138.2

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれております。

たな卸資産

イ．原材料及び貯蔵品

品名	金額(百万円)	品名	金額(百万円)
鉛	2	買入部品	1
鉄	0	その他	0
ステンレス	6		
樹脂	4		
非鉄	5	合計	20

ロ．仕掛品

品名	金額(百万円)
エンジニアリング事業	295
化工機事業	286
エネルギー・環境事業	217
合計	799

支払手形・買掛金

イ．支払手形・買掛金相手先別内訳

相手先		金額(百万円)	相手先		金額(百万円)
支払手形	新和工業(株)	312	買掛金	三原木村工機(株)	237
	広伸プラント工業(株)	199		(株)クリハラント	61
	三原木村工機(株)	158		太平電業(株)	51
	(株)クリハラント	72		(株)深川工業	40
	大和特殊鋼(株)	66		大和特殊鋼(株)	37
	その他	2,234		その他	1,011
	合計	3,043		合計	1,439

(注) 上記支払手形のうちには、設備関係支払手形51百万円を含んでおります。

ロ．支払手形の期日別内訳

期日	平成23年4月	5月	6月	7月	8月以降	計
支払手形 (百万円)	778	1,003	531	445	232	2,992
設備関係支払 手形(百万円)	9	6	2	5	28	51
合計	788	1,009	534	450	260	3,043

短期借入金

相手先	金額(百万円)
住友信託銀行(株)	315
(株)みずほ銀行	235
その他	750
合計	1,300

長期借入金(一年以内に返済予定の長期借入金を含む)

相手先	金額(百万円)
住友信託銀行(株)	195 (60)
(株)みずほ銀行	162 (50)
その他	701 (253)
合計	1,058 (363)

(注) ()内は一年以内に返済予定の長期借入金であります。

前受金

相手先	金額(百万円)
ニプロ㈱	1,024
千代田化工建設㈱	86
SHANGHAI MORIMATSU PRESSURE VESSEL Co.,Ltd.	22
NINGBO WANHUA POLYURETHANES Co.,Ltd.	16
住友金属鉱山シボレックス㈱	3
その他	2
合計	1,155

退職給付引当金

相手先	金額(百万円)
退職給付債務	2,589
未認識過去勤務債務(債務の減額)	171
会計基準変更時差異の未処理額	252
未認識数理計算上の差異	797
年金資産	671
合計	1,039

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告といたします。ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 http://www.kcpc.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利及び定款に定める権利以外の権利を行使することができない旨を定款で定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第63期)	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成22年6月25日 近畿財務局長に提出
(2)	内部統制報告書 及びその添付書類	事業年度 (第63期)	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成22年6月25日 近畿財務局長に提出
(3)	四半期報告書 (第64期第1四半期) 及び確認書		自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	平成22年8月11日 近畿財務局長に提出
	(第64期第2四半期)		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	平成22年11月15日 近畿財務局長に提出
	(第64期第3四半期)		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	平成23年2月14日 近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成22年7月1日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号(提出会社及び当該連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生)の規定に基づく臨時報告書

平成22年11月15日近畿財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6 月25日

木村化工機株式会社
取締役会御中

大阪監査法人

代表社員 公認会計士 池尻省三
業務執行社員

代表社員 公認会計士 前田雅行
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている木村化工機株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、木村化工機株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、木村化工機株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、木村化工機株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月24日

木村化工機株式会社
取締役会御中

大阪監査法人

代表社員 公認会計士 池尻省三
業務執行社員

代表社員 公認会計士 前田雅行
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている木村化工機株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、木村化工機株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「会計方針の変更」に記載の通り、会社は当連結会計年度より資産除去債務に関する会計基準及び資産除去債務に関する会計基準の適用指針を適用している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、木村化工機株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、木村化工機株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 6 月25日

木村化工機株式会社
取締役会御中

大阪監査法人

代表社員 公認会計士 池尻省三
業務執行社員

代表社員 公認会計士 前田雅行
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている木村化工機株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、木村化工機株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成23年6月24日

木村化工機株式会社
取締役会御中

大阪監査法人

代表社員 公認会計士 池尻省三
業務執行社員

代表社員 公認会計士 前田雅行
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている木村化工機株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第64期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、木村化工機株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「会計方針の変更」に記載の通り、会社は当事業年度より資産除去債務に関する会計基準及び資産除去債務に関する会計基準の適用指針を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。